Y. ASON
112
1104
J74

Sept. 1899
no. 495

明治三十二年九月十日

女學雜誌

第四百九拾五號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四百九十五號目次

◎社說
鑛毒地方可憐の婦女子
曰く、婿を買ふさ
續海舟餘波(八)
鬼面百相の辨(青柳有美)
◎大磯だより
八月十四日(湘烟女史)
◎文藝
案山子乃舍諸社中詠草添削評點
◎講義
女社會學藝娼妓類其他の統計(靜淵)
◎家庭
夫婦恨 ○家庭のまざりもの ○愛なき兒童研究
○妻の不平
◎隨感
○衰へたる哉、師道
○庭の石燈籠
○末路のさもしび
◎雜錄
鎌倉より(紫苑山人)
悪魔の雅歌(有美)
◎時事
市川女寅 ◎晩翠のから評判 ◎藤村死せる乎 ◎不具の見せ物 ◎美妙齋主人 ◎文士の求婚 ◎諧士小堀鞆音 ◎醂之助の技
女子の友記者に答ふ(小川桃花)
◎片々
◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾黨の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんさするを旨さす。

◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみさ指定して所望せらるるものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金	壹冊定價	拾錢
	半年分定價	壹圓拾錢
	一年分定價	貳圓
	(内國無郵税)	
廣告料	一行(廿二字詰)一回	前金拾錢
	同 三回以上	一割引
	同 六回以上	二割引
送金	送金は東京駒込郵便支局に宛て小爲替にせられたし◎郵便切手にて送らるる人は惣べて一割增にて計算せられたし	

◎代金は惣じて前金にて御注文ありたし◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送するとも可有之事◎但し其節は惣て一冊十錢の割にて計算し追て請求可致事

明治三十二年九月九日印刷
明治三十二年九月十日發行
發行兼編輯人 嚴本善治
印刷人 布川孫市
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所 女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工場
(電話番町十九番)

◎婦人科 ◉小兒科 專門至誠醫院治療之趣旨

本邦婦女の特性として温柔靜肅を旨とし閨門深く垂れ籠めて猥りに人に接はらぬを良家の庭訓となすが故に男子とは席を同ふし言を交すをさへ道に缺くるものとし語るべき病症殊に子宮疾患の如きは醫に就くを羞ぢ厭ふが爲めに唯窃かに心を痛め身を苦しめ終には人生の快樂を殺ぎ子孫の繁榮を遮ぎり天壽を天折するもの尠なからず豈嘆かはしき至ならずや 本院長も又是國風の間に人となり深く此弊を憂へ之を救ふの道もがなど慨然婦女の分として妄りに身を挺んで尊榮にして深邃なる醫學に志し研瑳多年その業を卒へ爾來又た數年東西の諸大家に就きて特に婦人科を研究して刀圭に從事する所以のものは己れ女性に生れたるの天職たるを信じて泥み近づき易く打ち解け語らひ易き同胞姉妹の疾患に對しては能く貞淑の美德を傷けず愼重懇切に治療し得るは窃かに諸大家に讓らざるの特技あるを期す又小兒科にありては第一の慈母として抑れ懷き易きが故に幼兒をして畏ぢ怯れ失聲啼泣せしむるが如きことなく安靜に診療を施し得るを以て誤診姑息等の弊なしとす是れ本院長が起ちて世の同胞に告ぐる所以なり

院長女醫鷲山強生診察 本院午前 分院午後

本院麴町區飯田町四丁目九番地
分院京橋區宗十郎町一番地
至誠醫院

女學雜誌

明治三十二年九月十日發行

第四百九十五號

社說

鑛毒地方可憐の婦女子

人もし大磯まで遊ぶべき時間と經費とを以てせば、裕に彼の鑛毒地方を視察することを得べし。五万町歩の田畠、毒を冠ぶりて青草衰ろへ、三十万の民、財を失なひ、家破れて、形容枯槁するに係らず、有志尙ほ長夜の夢より覺めんとせず。之れ何事ぞや。

茲に更に一事、悲痛なる事あり。苟くも、人の子女を懷ふことを知る者の皆な感慨に禁へざるものとす。左に、實地視察者の投書一篇を掲ぐ、

悲哀なる女子

松本隆海

主筆巖本善治君梧下、余は先きより、足尾銅山鑛毒被害民救護會なるを設立のため、其被害地たる東京、栃木、茨木、群馬、千葉、埼王の一府五縣に渉れる、渡良瀬川の沿岸を巡ぐり、以て被害の實狀を調査したりしに、其慘狀豫想よりも慘なるに驚けり。殊に憫む可く哀む可きは、抑も婦女子なりとす。余はこの可憐の婦女子に對し、同情の至りに堪へず、今慘狀の概略を記して、汎く世人に其哀れを分たんと欲す。希くは貴誌の一部を割ひて、彼の哀れなる婦女子のために與えよ。

抑も足尾銅山を以て水源とする、渡良瀬川の昔は、洪水の汎濫毎に、天然の肥料を沿岸の田畝に灌漑し、以て夥多の禾穀を獲たりし、世には珍れなる豐壤も、今は足尾銅山鑛毒の流出と、水源の山林濫伐に因れる、山岳の崩潰、河床の埋沒との爲めに、其地を荒まされ、哀れむ可し、農家に數町の田あれ共、農を以て立つ能はず、戶毎に手職を爲し、日に賃金の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

些かを得て、漸く其糊口に資するの、逆境に陷れり、この故に其婦女子は、日夜糸を操り、機を織り、以て家政を助け、口に味よきを知らず、身に襤褸を纒ひ、常に勞働の過度を顧みす、其勞働の過度と、營養の不足とは、自から其身の攝生を害するが故に、人は彼等の女子を恐れ、年は來れ共、人の母たる時代は來れ共、人の彼等を迎へんと望む者稀にして、殊に無害地の人より擯斥せらるゝに至れり。この故に彼等は自ら悲んで節を破るの境遇に陷るの止むを得ざるに至れり。之れ鑛毒被害地の女子が爲めには、悲哀の第一なり。

彼等の父母は、我娘の春を知らざるに非ず、彼等の父母は、日夜彼等を懐えり、農家農を以て立つ能はざるの父母は、家政のために娘の手を煩はす程、倘彼等を懐ふや切にして、一日も早く良家の妻たらん事を望めり、然れとも、人に嫁がしめんと欲せば、不躾なる事能はす、必ず相應の身裝を調へ、耻かしからぬ丈けの準備を爲すは、禮なり、謹みなりと雖も、如何せん累年の窮迫は、一通りの調度すら意の如くならず、年頃の娘をして、空く家政に勞せしむ、或る父母は之れを苦にし負債を爲くりて、其調度を爲さんとする者あれ共、これ又子として父母の爲めに潔しとする所に非ず、空しく年を送る、之れ彼等が爲めには悲哀の第二なり。

此くの如く家政不如意の窮狀に陷れる父母は、愛する娘をして空く家政に勞せしむるの有樣なるが故に、豈に學校敎育に與からしむるの餘裕あらんや、漸く小學に就かしむるを得れば、僥倖なりとする今日の有樣なるを以て、『女學雜誌』第四百八十七號誌上の社說に於ける、『新嫁入仕度』なるものゝ、調度は、到底出來得る處に非ず、若し緣談の際に敎育ありやと問はれんか、唯赤面の外なし、此點に於ては、所謂、裸身同樣、或は生れもつかぬ片輪物と呼ばれなんも、亦止むを得ざるなり、この故に例ひ前に謂ふ嫁入の調度は出來得るとするも、この『新嫁入仕度』に至つては、眞に裸躰なるが故に、世に耻ぢざるを得ず、之れ亦彼等が爲めには、悲哀の第三なり。

若し僥倖にして、人に嫁ぐを得たりとせんか、彼等は未だ不幸を免かるゝ能はざるなり、凡そ人の良妻を得て、而も愛兒を欲せさるは無し、然るに被害地の女子は、總じて、營養の不足と、勞働の過度と、其他間接に及ぼせる、鑛毒の侵害は

其身を蝕して、偶〱姙娠の身を抱え、漸く臨月に至り、將に呱々の聲を聞かんものをと、樂しめるの甲斐もなく、多くは墮胎し、死兒分娩の哀みを見る、噫之れ彼等が爲めには、悲哀の第四なり。

今又僥倖にして、愛兒を設け得たりとせんか、哀む可し、愛兒を哺まんと欲するに、多くは乳汁欠乏の不幸を見る、依て彼兒を懷ろにし、膨れ脹れる乳房を挟らしめつゝ、少兒の睡ろむ、其の無邪氣なる其可愛氣なる稚な顏を打眺めて、無限の愛に打たるゝの樂みは、彼等に在て、到底望む可らざるなり、此故に明治三十年の秋、栃木縣安蘇、足利の兩郡に於ける、無害地三百六十名の婦女子は、同情相愍むの情けより、此被害地にある、乳汁缺乏の婦女子を救濟せんとて、合計金九十三圓八十五錢の救濟金を寄附されたるの美擧ありき。夫のみならず、乳汁欠乏の爲に止を得ずして糊を施し、漸く二三歳に至る迄養育するを得たりとするも、發育完たからすして、斃るゝ者往々にして之あり、父母は慈愛の爲に、其貧苦を凌いで、夫迄に養育したりし者を、無情にも中途にして奪はるゝの悲を見る、之彼等が爲には、悲哀の第五也。

夫れ此くも彼等は悲哀の中にあり、嗚呼この悲哀は何れの時にか免かるゝを得可き、足尾銅山は、日に月に其業を擴張し、古川市兵衞の得る收益や、實に大なりとす、之に反し、渡良瀨川の洪水は年々に斷へず、其被害は歲々に激甚を加へ、所謂、古川市兵衞一箇人が收益の增加は、一府五縣に於ける數多の被害民が、益す慘毒に困めらるゝの基となる、この故に被害地の女子は一日よりも一日、其苦を增せとも、一生の中、安き思を爲すの日とてはなからん、噫之れ彼等が爲めには、悲哀の第六なり。尾濃の震災、三陸の海嘯、慘は慘なりと雖も足尾銅山鑛毒の汎濫は、一府五縣に渉り、被害の區域五万六千餘町歩、其人口三十萬有餘の多きに達せり、前者は急激に來るも、後者は緩漫なるが故に、人之を重しとせず、慘なりとせず、人生最大不幸の渦中にある彼等は、世人の仁慈に預かるを得ざるなり、噫世の安逸を得、不自由を感ぜざるの婦女子に愬ふ。希くは彼等不幸なる女子の爲めに、一滴の涙だを以てせよ、彼等程世に悲哀なる者、夫れ何處にかある、今記す處は唯其概略に過ぎず、其他彼等が悲哀の心事は、決して余輩が筆の及ぶ所に非ず、讀者夫れ之を諒せよ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

曰く、婿を買ふと

甚だしひ哉、男子意氣の衰ろへたる事。堂々、學あるの少年、爭そつて閨閥の奴と爲る。彼等唯一の希望は、富家の父に認められ、其娘に顧みられ、以て緣絲を金傑にからみて、之に賴つて出世立身の階とせんとす。憫れむべし、其の才は、女子が粉黛に異ならず、十年の苦學、必竟、何するが爲ぞ。夫れ近時、富豪と稱する所のもの、大抵、知るべきのみ。拮据正誠、公明の道に循がつて辛苦せし者や、殆んど稀なり。民の膏血に吸ひ、官の私偏に盜み、以て一代の暴富を爲せり。苟くも立志所學の儕たらんもの、當に皷を鳴らして責め、革覆の氣を負ふて、儼然として之に敵すべきものとす。而も、反つて、鼠々然として之に媚び、其の頭腦を下げ、其の腰骨を曲げ、只以て一意之が愛顧の足らざらんとするを懼る。何んぞ其の陋なるや。

而して、此等富豪が其の孃子の爲めに婿を撰ぶの狀いかむ。吾が讀者、試ろみに聞くべし。彼は、驕然として其の私邸に園遊會などいふものを開き、當代の才華爛熳たる少年を招かんとす。而して、其の秘密は既に公然の秘密たるが故に、才子皆な競つて應じ、たゞ之に招かれざらんとするを恨む。看よ、其の洋服の如何に立派に、其の頭髮の如何に梳けづられ、而して、其の聲の如何に空々しきかを。富豪の主人、戶に立つて迎ふ。其妻も亦た拮抗して立てり。彼は其の下品なる素性の歷々顏面に現われたるを知らず、貴婦人らしく立てり。尤とも惡むべきは、其の孃子なり。彼、身の程を知らず、只だ金力を知れり。黃金を以て英雄の得べからざる、不遜を以て丈夫が愛の得べからざる、彼は其の家庭に於ても、恐らくは學校に於ても、曾て聞きたるとなし、彼は、如何なる才人をも其の撰ぶまゝに握手し得べしと思へる也。然り、如何なる才人も其日其所に集まれるほどのものは、大抵、之が握手に欣喜雀躍すべき也。

嗚呼、斯の如くして、豕の如き當代の佳人が、猫の如き當代の才子を撰ふ、他の才子連りに恨み、連りに羨やむ時、富豪の主人莞爾として曰く、幸にして吾が婿を得たりと。更に其朋友に語つては曰く、幸にして一學士を買へりと。噫、「婿を買へり」の一語、現今彼等が社會の通語なり。

續海舟餘波（八）

◎「機先を制す」と云ふ事は、先生の哲學とも、人生觀とも、實地活手段の秘訣とも云ふべきものであつて、內外大小の事件、惣べて此の緩急によつて處置せられざるとは無い程であつた。

◎近頃の火事や、天候につけて思ひ出す一二の逸話を錄し、如何に微細の事に至る迄で、先を超して、準備があつたかを示さんに。前年、向島一面大水になつて、木下川の別莊も、水に浸つたとがあつた。一躰、日々の天氣にひどく注意される僻のあつたとは、前にも述べたが、其頃は勿論、大層の御心配であつた。然るに、權現堤が切れたと云ふシラセは、誰によつて知られたか、新聞社などの比ではない、氷川に坐ながら直ちに聞込れて、アレが切れれば向島は直きに一面の水になると云ふ經驗で、迅速に手當をせられた。然るに、かの別莊の近くの堤も亦た切れて、水は一面に家敷に流れ込んだが、此の時、別莊に留守せらるゝ閨秀の一團躰が、めざましい働らきをせられ、敏活なる手當を早速に處置せられたとも亦た一の美談であるが、夫は暫らく畧して置く。

◎水の跡で、先生が如何なる事を爲らるるかと見て居たらば、直ちに二階の建築にかゝられた。同時に、着物や、米を近邊の貧民に夥たゞしく惠まれたが、後ちに至つてのお話しに、『御覽よ、今年の冬は、大風だからね。水の跡は、いつでも風さ。スルト、所々に火事があるよ、ナニ、火つけサ。貧民は火でもつけナキヤ、立ゆくめえじやアないか。此方は警視總監でないから、江戸の火事を防ぐとは出來ないよ。自分の屋敷まはり丈の用心は仕て置くのサ』と云ふとで、また其時のお話しに『堤の切れるのは妙なもので、今年、此方が切れて夫を丈夫に直すと、此次は、其の對方が切れるよ』と云ふとで、最早、此次の爲にも御用意があつたらしい。貧民に惠與せらるるが悉とく策であつたと思つては、大なる間違であるが斯樣な時に、才德妙に一致し、大經綸と人情の機微とを巧みに同觀されたのが、先生特得の美質であつた。

◎また、此の二年前から、連りに、作柄に心配せられて、「饑饉の來るのは遠くではないよ」と言はれて居た。夫で、屋敷でも、千束の別邸でも、年々、慈姑や、百合を多く作らせて、

切りと貯蓄させて居られた。『万一の時には、之でも、少しは、足しになるからチ』と云ふことで、斯る些細の物に至る迄、貯蓄させると云ふお見込に就て考へたらば、更に其の大なる所に一々準備の供わつて居ることを推察することが出來るであらふ。

◎明治政府に於て、備荒貯蓄と云ふことに心を掛け、兎に角、あれ丈の方法が立つ様になつた大元は、曾て先生が古來の凶荒を精密に取調べ、其の救ひ方を一々列擧し、最後に當代に於ける經綸の大畧を記して、吉井幸輔氏に與へられたのが基礎になつて居るのである。

鬼面百相の辨

青柳有美

編者曰く、青柳君を識る者は其の「鬼面百相」を讀むに唯だ文字を以てせざりし也。青柳君を識らざるものは唯だ其の文字を以てすること固より是非なし。夫れ、文は情を見めす、其の見めすことの淺深は必らずしも文の巧拙によるにあらざる也。而して往々筆者讀者の情感相疎通せざるは何故ぞ。文壇の恨事斯くの如きは少なし。「鬼面百相」出るに及んで

紛々として評あり。其の「七ッ道具」に及んで、遂に落雷の如き騷ぎありし也。編者憮然として長歎し、暫らく默す。知友の言ふ所あらんとするによつて或は一辭を呈せんかともなしき。然るに、偶たま有美君湘南の客窓にあり。游子雨に打れて恨思糸よりも細く、忽然左の一文を寄送せられしかば、則ち當欄内に掲載して、讀者に薦む。

我れは素より心曲れるものなれば、世の德高き士君子たちの仲間に入りて、神の子の如き優しき面を粧ふ能はず、頻りに折よき敵を尋ねて、鬼の如くに噛みつくなり。げにや、我が牙にかゝり給ひしものこそ、いと〱あはれなれ。」貴婦人たちの、我が『鬼面百相』を讀みて、怒り罵らるゝ聲の、近頃其處此處に喧しきも理りなれや、我れ力を極めて男子一生の思ひ出にガブと噛りつきたれば。」殊に『佳人七ッ道具』などいふものには、天も碎けんばかりの御立腹にて、さる貴き夫人の如きは、一讀憮然として女學雜誌を地に擲ち給ひし程なりとぞ聞く。されど、これ又サラ〱無理なることにも候ふまじ、かの『日本』新聞の評林子とぞいふ嚴めしき男さへ、唐ぶりの詩四首まで。このつたなき一文のために詠ませたまひ、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

且つは『色狂と女學雜誌』などいふ怪しき題目の雜評まで、載せ掲げられし程なれば。

しかはあれど、尊とき姫達よ。徒に他を責むることを知りて、自ら省みる心薄きは、道を愛するもののなすべきことにあらざるぞかし。卿等は其の隠し蔽へる弱點の、發き堀られたるに憤り給ふ乎。さて〳〵淺ましき心根やな。」世には、如何はしき道德家なるものありて、我が病所を指摘せられ、神の如く飾りたてし金箔のはがれて、人らしき本性を現はされたるに驚ろき、眞珠を投げ與へられたる豕の如く、しきりに猛けり叫びて、熱情ある文士を『不健全』呼はりするを常とす。されど、こは豕のことにして人のことに非ず。寧しろ、罵り怒る聲を潜めて、深く自から省み、畏みて其の病所を訂すべきにあらずや。

『鬼面百相』の記者も、一たびは若きことありて、女人の御姿を菩薩の如くに渇仰せり。されど、今は如何にせん智慧の實を食みし後なれば、我が眼は開け我が耳は聽く、殊には色々のいぎたなきところまで、ビードロの如くに見え透きて、之を拜まん心はせじ。さるを、世の媚多き男どもに謬られて、その身の臭きを知り賜はざる姫達の憐れさよ。」今の物學びし給へる女性たちは、漫りに過まちを男子に嫁して、女子今日の不遇悲慘は、皆な男子の罪なるが如くに言ひくるめ、某は薄情なり多情なり移氣なり、某は壓制なり我儘なり、某はしつッこし、某は何に某は何にと、あらゆるほどの汚名をおとこに負はせて、自らは欠けなき天女の如く宣揚し給へど、罪と病所とは又婦人にもあるなり、豈に獨り男子をのみ責むべけんや。世の臆病者と如何はしき道德家とは、之れを口せず、我れ唯之を直筆せるのみ。

貴婦人達よ『七ッ道具』は女性を誣るものなりと宣ふ乎。されど、是れ決して誣言にはあらず。こは唯我が知れる女性に就て言へるのみならず、凡ての女人に通じて誤まらざることにて、殊に勝れたる姫たちの、必ず用ひ給ふところなり。されど、これ多くは無意識のうちに、施こす所にして、殆んど先天性のものなれば、自ら斯る道具を用ふるとは、夢々氣付かれざるべし。その他『鬼面百相』に於て言へる多くの病所弱點に至りては、素より皆な女性が先天的に傳へられたるものなれば、殆ど何の思ふところなくして、その病に罹るも又無理、

ることにてあるまじ。」我れは　徒に女性の非を擧げて自ら樂まんとするほどの惡るものならず、たゞ其聖人顔に男の惡る口のみして、道學家らしくめかし給ふ面の惡らしさに、皮一枚めくりて、其正躰の穢なさに驚かせ、少しにても反省せらるゝに至らしめんものと、人々のせざるところを、好んで敢てせるのみ。」我は筆の尖の惡きほど、心の底は惡きものならず、實は至りて弱き善男子にて、筆の上でこそ女性の惡口もいへ、面のあたり少しく勝れたる婦人を見せられなば、一も二もなく直ちに感服項禮するほどのものなり。たゞ筆一管を握れば、勇士の劔を取れる如く、忽然として強げに見ゆるまでなり。されば、我が言ひしところ若しや矯激なりとて、女性たちが自から省りみて德に進むの手だてとはなるべし。是れ、誠に記者が願ひなるを。」世は廣し、貴婦人は多し。悉く我が意の眞味を誤まられたるものゝみにもあるまじ、仲には記者が衷心の熱情をも察せられて、その意を了せられたるもあらんと思へば、稍々慰むべきところあるなり。

されど、又おかしきは『鬼面百相』のことを以て、たゞに我れのみならず、女學雜誌の編者をも誹るものあることなり。これぞ眞の豕根性ともいひつべく、自から腹たてしとて、手當り次第其處ら此處らを暴れ廻す。寧しろ憐むべきことならずや。かくして自から省みること能はざるのみならず、途方もなき人にまで、手向ふとは、さても／＼淺墓なることどもなり。良藥は口に苦きを。我が先輩は寛宏の人なり。罪はたゞ我れのみにあるなり。」また、『鬼面百相』の記者を以て、倫德を亂るものなりとなすもの、往々德高き淑女士君子の間に多しとか。こは我が痛罵の諷刺的なるを知らで勸告と誤り、或は其文字の皮層に讀んで、我が眞意のあるところを解せざるか、或は死せる杓子と定規とを以て、生ける人間の準繩なりと心得違ひせる人々なるべし。我れ有美自から『惡魔の子』を以て稱すれども、また『道』を以て我が安宅となすものなり。我れ斷じて一たびも『道』に反くべきを教へしことなし。實に一たびだになし。されど思へ『道』とは杓子と定規とに非ざるを。

英雄見事若通神　聖哲爲心小一身。
爾曹身與名俱滅　不廢江河万古流。

大磯だより

湘煙女史

八月十四日　晴

早起、庭を歩し、偶一詩を得

夢覺山猶眠　穿レ雲曉鐘度　涼氣不ニ是風一　樹濕雨乎露
汲レ泉欲レ煎レ茶　殘月着ニ輕歩一。

朝食前の課程を修し去てのち日本新聞を讀みしが、病床鎖事との題に、何か吾と縁故ある如く思はれ、第一着、眼光は其中に入れり。長文中、一二を擧れば、

我ながらなが〳〵しき病に飽きはてゝつれ〳〵のやるかたなさに書讀み物書くを……これに離れよといはんは死ねといはんの直接なるに如かず云々。又、夢にては立ちて歩くこと病なき昔の如く云々。又、病みて臥せる身には日和程嬉れしきはなし朝に雨戸明しむる時寢ながら外面に向きて空を窺ふ……新聞を拔きて先づ天氣豫報を見る曇後晴などありたらんにはさすがに望あり云々。

吾は之を讀みて痛く同情にうたれたり。この筆者の性名はど讀半にして初を見たれば、只「升」といふ一字のみなるに、遺憾に勝へぬ心地するも可笑し。傍らに人ありたれば、こゝ讀みて見よと示せしに、一讀してハハと輕く笑ひしに、吾は更に其筆者の情を酌量せり。こはこれ筆者の情を酌量するといはんより、吾が吾の情を酌量すといはん方、正直なる乎。この筆者の書に離れよといはんは死ねよといはん直接なるに如かずの語、其境に在るものにあらざれば、爭でか其情を知るを得ん。凡醫が病者長日月の欝悶少しも慰藉せんとはせで、枕頭の書藉に乍ち眼を瞋らし、發熱も盜汗も多くは書見より來ると戒しめ、看護の人々も之を柄に執り、忠義顏に枕頭の書悉く他に藏し、之に代ふるに何の慰藉品を與へんともせず、手を鳴らして人を呼ぶ事も、親から起きて茶を飲むとも出來ぬ病者を獨り藥窓に臥せしめ、折々笑語の聲を遠き部屋より送りて、平然たる間、何物ありて能くこの病者に伴侶たるものぞ。無字の經、無相の觀も、肉躰の飢渇は救ふ能はず。此間にありて共に笑ひ、共に泣き、十分の同情を寄せて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

些の恩惠顧せぬものは、只一の書ある耳。活動する人間の情が吾に於て活動せぬやうになるに從ふて、活動せぬ文字の趣味が漸次に活動し來るなり。吾幾回となく熱涙を濺いで文字なるものに感謝すると同時に、吾と同じく病生涯を送らざるべからざる人にして、文字を解せぬ人は、いかにして悲境を慰するかを思はざるはなし。讀書のみにては先方の話を聞くのみにして、おのれが歡樂も不平も昔し語りも當時の考も、洩すに便なき心地のする時、情なき友に强て情を喚び起さしめんとして得ず、中心快々たらんより、一枝の筆假り來りて、おもふ存分書き散らすの寧かに勝さるゝに如かざるなり。書き了りて自から之を讀むときは、今讀む吾が語る人にして、書きし吾が聞く人の如く、位置兩者に分れて無量の興味を覺ふなり。これ吾が日間鎖事錄ある故なり。この鎖事錄は實に鎖事錄にして、桐の葉の落る樣、柳の舞ひ方、簷に弔せし岐阜提燈の動き振り、筧より迸ばしる泉の音、夕陽に映ずる山の色、一縷の香煙、茶鼎の松籟、蟻の餌を運ぶ、蝶の花に眠る等迄、一切合切、この錄中に登り、珍らしき事のみ記せんとの念なければ、材料に究することなく、名文を以てせんとの

一〇

意なければ、下書を作るの面倒なし、身後の名を重んずる杯と云ふ大層の考にてはなけれど、中には餘りつまらぬ事ありて、過し日悉く燒拂はんかと思ひたれど、今はなき人、其なき人と對座の模樣など、吾にありては聲ある寫眞の如く‥‥

（以下畧す）

近作

颯送微凉大月近、蒼空一望雨初晴、
孤樓半夜啼蟲切、不似去年聞得聲。

近作二首（初夏寄送）

追懷往事又何愁、座必同窓行共游、
領畧人間歡樂境、月花十有六春秋。」
煙雲散盡日初暄、與蝶綏行春晩村、
紅紫落零多恨事、入蔬園不入花園。」

文藝

案山子乃舍諸社中詠草

（案山子乃舍主人添删評點）

長府社中（詠者皆長門の人）

樹陰夏月　　日原素平

（風渡る。）ならの葉の廣き（葉をもる）ひまより月影（光）の洩れて涼しき庭の面かな

評。和歌は大體より言ばゞ辭つかひ屈折多く滯りがましくては感情起らぬものなれば可及的さら〳〵とやすらかによむ修行をなすべき也今此添删と吟じ比べてよく〳〵味ひ給ふべし

月前納涼　　春の舍主人

、おもはずも短き夜半をふかしけり涼しさあまる月の光に

評。用辭に別段の難もなきやう也趣向も常に實驗する事也

夕立晴　　藤井眞澄

、なるかみの遠きひゞきとたつ虹を名殘に晴るゝ夕立の空

評。これも前と同し

同　　藤舎のあるじ

（小山田の）、せきわくる水あらそひも夕立の雨と共にも（ひさつに）流しける（れ）かな

評。此所井戸や池の水あらそひにはあらで田用水の爭なる事は推察にて知らるゝも田をいはなくては詞足らさる也又下句の添删は二のもの音耳に障る故避けたる也

夏扇　　日原素平

（水無月）、あつき日の命とたのむ。扇（。旅）をは腰にさすかそ（こ）かなめ也けり（れ）

評。いつこにか行く時ならでは扇を腰にさす必要もなかるべし故に旅扇と添删せり又腰にさすなどの辭俗劣なれども實際ある事にして他に之に代りて言ふべき雅辭なき時は言ふべき實事も多く言はずに止まざるべからず而も詩歌は實景情に基きて思を述ろものなれば甚しき卑劣にあらざる限は可及的用辭の區域を擴めざれば新思想を吐く能はざるべし此所保守派と開進派と別るゝ點也

同　　春の舍主人

、晝とひし人もゆふべの涼しさに扇わすれて歸りけるかな

評。用辭に格別の難もなく趣向も實際あり得る事也

同　　藤舎のあるじ

（夏扇我が）、、おのが手にならす扇の風より。もあふが（。わきも子）せてこそ涼しかりけれ

評。己の手にて扇を用ふる時は多少運動神經を勞し勞するだけそれだけ體の感覺神經の快涼を減ずる故これは誰も常に感ずる事也而も評者は古來和歌に詠みたるは幾んご聞かざりし也是れ詠者が世間一般の歌人の如く陳腐の作例に依賴せず實景情より詠まれし證也今わきも子にと添删せしを女權擴張米國主義の女生諸君は不平に感じ我背子にさすべしと叱り給ふや知られど妻は常に家に在り過度の勞をなさず夫は炎天外出遠行し全身汗に浸して歸來らん時妻は出て其衣を脫ぎ汗をふき洗衣を着せ側より扇にてあふぐなど現實日本の風俗なれば姑く許し給ふべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夏泉

日原素平

、青葉茂る夏山陰の岩清水たえず汲めども濁らざりけり（風きよき）

同　藤井眞澄

、松蔭の岩井の清水立よれば誰がわすれけんかさ殘りけり（しらぬ扇の）（ろ哉）

評。和歌は趣向よりも調辭を重んず調辭にして正しからんか陳套平凡の趣向も一新する事あり調辭にして整はざらんか如何なる斬新の趣向も用をなさず此所傘も實際人の遺失するものなれども、かさ殘りけりの句調輕忽是も雅味なし且傘よりも寧ろ扇の方が清水の涼しさに對して忘れやすき關係多きなや

同　藤舍のあるじ

、落かゝる岩間の清水身にしみて夏を忘るるとんねるの中（も通はぬつちの下道）

評。外國語中調音の和歌に挿入しても妨なきものは可及的用ふべし而もとんねるの調音は耳にさはり雅味を殺す

舟中納涼

日原菜平

、棹さして漕ぎゆく舟の涼みには晝の暑さや乘りおくれけん（早瀨川。す）

評。舟は淺き川には棹さして進むもの又深き河海には櫓や櫂にて漕ぎ行くものなる事は誰も知る所也深き所を竿にて漕く能はず淺き所を櫓にてさす能はざる也或は淺深不定の川あり甲乙兩人舟夫にて一舟を行るに甲は淺き方に竿をさし乙は深き所に櫓を漕ぐ事なしともいはれねど斯る場合は例外也普通の歌には漕行くか竿さすか孰れか一方にて宜しかるへし棹さして漕行くとは實際斯る所ありとしても餘り念が入り過る也又添删は下句に乘後れさあるより少しにても緣語照應させん爲に早瀨川させり

橋上夜涼

藤井眞澄

、つどひ來し人は歸りて橋の上に涼しさあまる夜半の川風

評。調辭上少しく不滿足の所もあれど趣向は實景也

川邊夜涼

同人

、月ふけて涼しさまさる川つらにかつ〳〵人の影のへりゆく

評。此方は調辭上前詠より少しはましなれど川つらにのみにて涼む人の群集してありしさま漠然たるやう也四條川原にとでも言ふを得ば群集判然すべけれど

水邊晩涼

藤舍のあるじ

、涼しさはゆあみすまして岩はしる清水にむかふ夏の夕くれ（夕くれの）（をはてゝ）（がもとに立つぞ涼しき）

評。初五に涼しさはなど言出すは餘程よく詠まざれば細工的に聞えて陋しく感ずるもの也又すましての辭俗劣也

舟邊夜涼

同

、さす月の影も碎けて舷をあらひては去る波のすゞしさ（によせては歸）

評。實景見るが如く自然涼味を覺ふ

夏氷

藤井眞澄

、此ころのあつさを冬に殘さばや冬の氷を今めづるごと

評。調辭上可もなく不可もなしさや言はん唯趣向に於て陳套ならず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同　春の舍主人

、、いにしへの君にさゝげし夏氷市にもひさく世となりにけり

評。調辭上更に申分なし亦趣向舊套を脱す

同　同

、氷うる翁の市の軒端には夏のあつさも及はさりけり（訪ばてやあるらん）

評。翁の市の軒端か高くて富士山の如くあらんには及ばさりけりと言ふ方宜しかるへし

夏山居　日原槃平

、青葉しける（世にうさき）なつ山陰の苔清水心にごらぬ住居也けり

評。唯心濁らぬの句だけが取るべき所也

夏旅　蓬の舍主人

、○幾たひか（道のりを。）道程人に問つゝも（らん）暑さになやむなつの旅人

評。實景情にて舊套にもあらず

夏山居　藤井眞澄

、岩はしる瀧のひゝきと松風の音は都の夏にかはれり（知られざりけり）

評。松風はもとより音を賞玩するもの也故に松風の音と言はば最早調辭おくるゝ也

同　春の舍主人

、夏山（山松）のしげみ（あらし）の陰（下）に家居して涼しくむすぶ谷川の水

評。かく添削する方が調辭も高尚になり趣向も益清涼を感ずるやう也熟考し給ふべし

夏旅　同

、あつさにて（日さかりは）すゝまぬ道を夜にかへて中々（涼しき）月にはかどらぬ（たどる旅）哉

評。月が花や紅葉の如く旅行途中の一部分にのみあるものならば見捨て過るには惜くて道もはかどらぬ譯もあるべしされど月は十里の野山を終夜急ぎたりとて猶空に在る物也必しも一ケ所に止まりて見るにも及はず實際は却て月夜の涼しさに乘じて面白くもあり道行は進むべし

同　藤舍のあるじ

、白浪のよする濱道晝はあつみよる行く旅を人なとがめそ

評。白浪のよする濱は他の路に比べては涼しきやうなれど又炎日には木蔭もなく白砂焼けて野の草原や並木の路を行くより熱かるべし詠者は結句のとがめに照應して白浪を盜賊にかけられたるべし

暮山蟬　藤井眞澄

、夕日影はつかに殘る松山（山松）の風（嵐）にたくふる（まじる）蟬のこゑ〳〵（かな）

評。蟬の聲は時雨の音に似たる事に古より言ひなれたれど松風とは聞なされぬやう也

谷蟬　春の舍主人

、日ざかりの山路こゆればしげり合ふ（涼しくも谷間）梢に蟬の聲ぞあらそふ（しぐるゝ）

評。結句のあらそふとは宜しからず添削にて價直を出したるやう也趣向陳套ならずして實景也

風車　藤舍のあるじ

、ふけば舞ひふかねばとまる風車風のまに〳〵まかすべら也（まゝなるうき世也けり）

評。下半句は上半句を重複せしのみ何の詮もなし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

水車　　同人

、水あさき小川にかけし水車めぐりかねたる世にもある哉（我世なる）

評。結句世にもある哉は宜しからす世にこそありけれといふへき也されど添刪の如く詠者自身述懷にする方尙興味あるやう也從て題も述懷に取るべし

同　　同人

、水車めぐるちからにえれきをもおこすみ代ともも成にける哉（遠き國よりめぐり來て）（り）

評。電氣は歐洲の發明にて日本まで發電法傳はりたる物なればかく添刪する方宜しかるべし又斯る所必御代といふべき必要もなし

傀儡師　　藤井眞澄

、、おのがしゝかたみにまはす世の中は皆あやづりの絲のわざ哉（なへてくゞつ）（のみにして）

評。調辭上に於て結句宜しからず添刪にて無難となれり趣向は政海商界等は勿論權謀術數是れ事とする人間社會の眞狀を穿ちて面白し

同　　同人

、、世の人を黃金の糸のひと筋にかけてあやつる大でくまはし（大くゞつ）（世とは知らすや）

評。これも宜し寸鐵殺人の慨あり殊に結句の添刪にて力出たり

同　　藤の舍あるじ

、でくつかふその針がれの糸よりも細きくらしのいかに佗しき（巧にもまはすくゞつは）（世をわたるらん）

評。單にくらしにては俗語と異なり生活渡世の事には不完全也世をくらすなどいはゞ宜しきにや

講　義

女學社會 藝娼妓類其他の統計

布川靜淵

寸鐵金針とは夫れ統計表の謂か。一字の斷案千言に優り、一行の表明万句に値ひす。自今、特に女學の爲に精細の表を作らんとするものは、其事の直ちに女學に益あるのみならず、此を推して以て國勢の全班を類察するとの難きにあらざれば也。玆に其の第一回として錄する所のものは、其筋の調査を經たる最近の事實にして、材料極めて正確、且つ未だ曾て世に公けにせられざりしもの也。之に附言する所のものは、余の一家言に止まり、もとより蛇足を添ゆるの嫌ひなきにあらねど、讀者之に緣りて種々連想の緒を引かれなば、惟ふに統計表を讀察するの道に於て少補あらんか。併せて告ぐ、本誌前號に揭げたる一外人の調査にかゝる本邦男女に關する道德統計の一斑を參考せられれば、更に妙味生ぜん。

藝妓酌婦料理店待合所等現在表

明治三十一年八月

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

藝妓酌婦料理店検番所等現在表

明治三十一年八月一日現在

府縣	藝妓	小藝妓	藝娼妓兼業者	仲居酌婦	藝妓屋	料理屋	料理店ノ外營業上藝妓出入場所	検番所
東京	二、一七八	五六七	—	五、二四九	一、三一七	四八三	四二八	三
京都	一、一四四	六五	—	八六三	五九〇	四二九	一八四	一一
大阪	一、六九二	—	—	二八〇	一二一	四八一	四三	二六
神奈川	四九〇	一三五	—	一、一五一	一七八	五二〇	三三〇	六
兵庫	一、二七四	一三四	—	八五七	三六九	五五一	四九三	五四
長崎	三一八	三七	—	四一六	四〇	二五四	—	一
新潟	一、三六〇	二二四	—	二五五	二九六	一、一五六	五八二	一
埼玉	一四六	五六	—	一、〇六四	六四	九三七	一〇	六
群馬	四八九	一三六	—	六二九	一九〇	一、九四二	—	七
千葉	三七四	五四	—	二、一二二	一〇六	二、八八二	四一	六
茨城	三〇五	一〇〇	—	三、一八三	一三五	二、三〇七	一六〇	三
栃木	四九四	六六	—	四七〇	六三	五五二	二七	五
奈良	一五八	六	—	五九一	三三	二〇七	五五	—
三重	四九八	一七三	—	七五五	四九	三三八	六六	—
愛知	一、〇九三	一九六	—	一、九六〇	二八六	一、六一一	五〇	—
静岡	九二一	一一四	—	六三七	三九五	四一四	二三一	一一
山梨	七五	二三	—	三二二	三五	一二八	三五	二
滋賀	二八七	四六	—	二八四	九九	四七七	—	八
岐阜	三五二	五三	—	九二四	八九	七五七	一一四	—
長野	一、〇二二	二一四	—	九一七	三五六	二、〇二二	三一	一三
宮城	二三五	二〇	—	六三七	三〇	二五五	九九	—
福島	四三九	一四八	—	六六七	五八	五一〇	一六二	六
岩手	一三三	一	一	四六四	三八	四二八	一	三
青森	一一六	一一	—	二一二	—	四六五	—	三
山形	二九五	七九	—	一七一	一三	一九七	三五〇	—
秋田	一六五	八七	—	一四二	—	三一二	—	四
福井	四五五	九六	—	八七	二二八	四九五	—	三
石川	八二九	二五	—	七四六	九	四四五	五二〇	—
富山	六二七	五二	一〇七	一〇	—	三四三	五四	—
鳥取	一〇七	二	二七	一〇〇	二二	二〇五	三〇	一三
島根	二六九	五二	一四	二〇一	八九	五六三	一九五	一四
岡山	三二六	一八	—	五〇二	一一二	一、〇〇七	二九	二〇
廣島	六〇七	九六	七六	五六四	一八一	五二七	三一一	一四
山口	六八八	二七	—	七六五	一九〇	四二四	四六〇	一二
和歌山	二九九	三六	—	一六三	九六	二三七	九六	一
德島	二二八	五七	—	七一三	一七三	三〇〇	一七八	四
香川	二〇八	四三	三九	二五〇	—	四六八	—	五
愛媛	三六五	二一	七二	一六二	一三八	四〇六	三七	一〇
高知	九八	九二	—	三二四	五二	二〇五	—	—
福岡	七四七	二三	一四	一、四一二	三七	七一五	二〇四	二八
大分	三八一	一二	二三	三六〇	一五一	三四五	—	一五
佐賀	一四二	一四	二六	五三七	一三	二一一	—	二
熊本	一二八	一四	—	八〇九	一七	二〇七	—	八
宮崎	二三六	二	—	一六	一五	一二七	—	二
鹿兒島	一五六	一二	二七	五八二	五二	一二一	三	—
沖縄	二〇	四	四	一二一	—	六〇	—	—
北海道	一、一九二	九四	八三	三六九	一四	一、四八五	四〇	一六
「計」	二四、二六一	三、五三七	五一三	三四、〇一五	六、六四七	二九、五一一	五、六五〇	三六四

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

之に據れば全國中、藝妓數の最も多きは東京にして、大阪新潟兵庫北海道京都長野等之に次ぎ、小藝妓は東京新潟長野最も多し、東京は概ね雛妓より藝妓に成り上からしむる組織にて所謂半玉なるもの多く、大阪に其名を見ざるは斯かる種類少なく總躰藝妓と名くるか爲めなるか如し。中には一二人の小藝妓ある地方あり、概して此種の者は土地の習慣にて其發成する方法より大に多少の相違を來すものとす。藝娼妓兼業者とは所謂二枚鑑札を有するものにして、藝娼を兼ぬる類を指す、但し此種のものは遊廓以外に藝妓として出入するを能はさる者なり。又中國の一部と四國九州邊にのみ限らるゝは注意すべきとなり。是等は年々增加の勢ひありて風俗上衛生上より見れば娼妓より却て恐るべきものあるか如し、則ち高等淫賣にして人の妾となるも此より出るもの大多數を占むればなり。

仲居酌婦の多數なるは、東京を以て第一とす、茨城千葉愛知福岡等之に次ぐ、此酌婦なるものは概して無藝の藝妓、切言すれば密賣婦過半を占むと云つて可なり。特に東京附近なる關東地方を以て然りとなす。千葉茨城群馬其他に於て酌婦の名あるもの概ね之れ密賣者なり。

藝妓屋は東京を以て第一位とす。京都其次位にして蓋し之を以て有名なる所、靜岡長野兵庫等之に次ぐ、北海道に於ては藝妓屋僅かに十四軒にして千餘人の多數を占む、恐らく一家に蓄ひ置かるゝもの其數定めて多きや必せり。料理屋は千葉茨城群馬長野等に多きは、前述せる仲居酌婦の多數を蓄ひ、料理店に於て所謂茶屋女と稱して、密賣せしむるか爲め、斯くは多きなり。右地方の料理屋は密賣の貸坐敷と云つて可なるもの決して眞正の飲食專門の料理店にはあらさるなり、東京の料理屋にて斯の如きもの少なきは、一方に數多の貸坐敷あり密賣ありて、料理店は飲食專門を爲し、各分業する事を得るか爲めとなす。料理店の外にて藝妓の出入する場所は、重もに待合等を指す、檢番所は表に示さるゝ如く、中には皆無の所もあるを見るべし。

遊廓地貸坐敷娼妓娼妓周旋人現在表

明治三十一年八月一日現在

府縣	遊廓地數	貸座敷數	娼妓數	娼妓周旋人數
東京	九	四七七	六、六五七	二三四
京都	一五	九九五	一、五五五	一八
大阪	一〇	一、六五〇	六、〇八四	二二
神奈川	一〇四	二一五	二、六五九	一二
兵庫	一〇	二〇七	一、七六〇	三二
長崎 內四ケ所未開始	二六	二九五	二、〇六四	三九
新潟	三一	四六七	一、六九一	一八三
埼玉	二	二七	二八四	二
群馬	—	—	—	—
千葉	七	三五	四二〇	二
茨城	七	六二	四四二	九
栃木	一二	一一五	一、〇〇三	七
奈良	二	五〇	三六三	三
三重	四一	四九九	二、九九九	五八
愛知	四	三五九	一、八七二	四四
靜岡	二九	一八二	一、〇二四	七
山梨 內一ケ所未開始	二	二三	一七九	—
滋賀	一〇	二四〇	四三五	一三二名 內助手
岐阜	四	一〇二	六五一	六〇
長野	一一	一五二	一、二三八	三
宮城	一七	八〇	六三二	二〇
福島	九	一八三	一、一七二	一〇余
岩手	一八	一〇〇	四四六	三

府縣	遊廓地數	貸座敷數	娼妓數	娼妓周旋人數
青森	一六	一三二	四六七	一一
山形	五	二〇六	八七九	三六
秋田	一〇	六六	二五六	—
福井	八	二〇〇	四四二	六
石川	一六	三七一	五五五	五二
富山	一三	三一七	八一三	一五
鳥取	三	四四	一〇〇	四
島根	七	六八	一五四	二六
岡山	一〇	一二九	四六九	三三
廣島	二二	三二六	一、四一九	八三
山口	四一	二一一	八八四	三〇
和歌山	—	—	—	—
德島	三	五二	一〇五	二
香川 內一ケ所未開始	六	一一五	三二八	二
愛媛	二	三三	一六四	一〇
高知	四	三七	一三四	一九
福岡	七	一一五	一、〇三三	四八
大分	五	四五	一六二	九
佐賀	六	七〇	三六〇	九
熊本	四	九〇	一、一〇九	六三
宮崎	五	一五	六〇	—
鹿兒島	一	一七	二八〇	三
沖縄	三	五三八	九一一	—
北海道	五九	四六〇	二、四九四	三五
「計」	五四六	一〇、一七二	四九、二〇八	一、二七七

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

此表を通覽し來りて第一に吾人の注意を促し來る者は、群馬和歌山の二縣にして、此種の不潔なる數字を見當らず、如何にも快ちよく感ぜらるゝとなり、全國中遊廓地數の多きは、北海道を以て魁となす、蓋し同地方たる土地廣漠にして、其開拓を創むるや、人民を集合する方針として酒、女、賭博の三者を利用して其効を收めんとを期せり、是れ今日最も多數となれる所以なり。三重山口新潟等之に次ぐ、山口の如き諸所に少數つゝ散在する所なれは、斯くは多き次第なり。他は娼妓を多出する地方に於て遊廓地數の多きを見る。之を貸座敷數に比すれば亦地方の特質を知るに足るものあり。東京の如き四百七十七軒の貸座敷ありて、娼妓數は六千六百五十七人なれば、一軒平均十四人位を養ふ割合なるも、大阪の如きは一千六百五十餘軒ありて六千餘人なれば、一軒平均四人位の割合に過ぎず、東京を除けば地方は概して一家に多數人を養ふとはせず或は一二人を置くに止まるもあり、是れ經濟事情の然らしむる所にして、諸所に小數宛を措くに非れば、融通利かさるが故なり。遠距離の一二箇所に大廈高樓を築き、斯に數十人を養へば嫖客は皆此に集まらざるを得ずして不便此上なければ小數宛を蓄へたる者、諸所に散在する次第となるなり。

娼妓周旋人數は、東京第一位にして新潟之に次ぐ、東京と大阪と娼妓數に於て僅かに六百の差あるに止まりて、其周旋人數の大差あるは注意すべきとなり。蓋し東京は此種の業務を力むる者多く、大阪は少數にて其業務を手廣く爲すもの乎。新潟に多は同地方より娼妓出稼の多數なるを出て解し得べし、岐阜と云ひ愛知三重何も娼妓出稼の多出する所なれば、周旋人の多數ある怪むに足らず、九州に於ては熊本を以て最とず。

娼妓となりたる事由別表

明治三十一年八月一日現在

府縣	娼妓數	娼妓と爲りたる事由別 一家之窮境ニ出タル者	一家ノ不和ニ出タル者	本人素行修ラサルニ出タル者	情夫ノ爲メ又ハ他人ノ慫慂ニ出タル者
警視	六、六五七	六、六二八	三	—	二六
京都	一、五五五	一、五五五	—	—	—
大阪	六、〇八四	六、〇八四	—	—	—
神奈川	二、六五九	二、六五九	—	—	—
兵庫	一、七六〇	一、七六〇	—	—	—
長崎	二、〇六四	二、〇六四	—	—	—
新潟	一、六九一	一、六九一	—	—	—
埼玉	二八四	二八四	—	—	—
群馬	—	—	—	—	—
千葉	四二〇	四二〇	—	—	—

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

茨城	四四二	四四二	—	—	—
栃木	一、〇〇三	一、〇〇二	—	一	—
奈良	三六三	三六三	—	—	—
三重	二、九九九	二、九九九	—	—	—
愛知	一、八七二	一、八七二	—	—	—
静岡	一、〇二四	九九四	—	三〇	—
山梨	一七九	一七九	—	—	—
滋賀	四三五	四三三	—	二	—
岐阜	六五一	六五一	—	—	—
長野	一、二三八	一、二三八	—	—	—
宮城	六三二	五八二	—	五〇	—
福島	一、一七二	一、一四二	—	三〇	—
岩手	四四六	四四六	—	—	—
青森	四六七	四六七	—	—	—
山形	八七九	八七九	—	—	—
秋田	二五六	二五六	—	—	—
福井	四四二	四四二	—	—	—
石川	五五五	五五五	—	—	—
富山	八一三	八一三	—	—	—
鳥取	一〇〇	一〇〇	—	—	—
島根	一五四	一五四	—	—	—
岡山	四六九	四六九	—	—	—
廣島	一、四一九	一、四一九	—	—	—
山口	八八四	八六七	—	一三	四
和歌山	—	—	—	—	—
徳島	一〇五	一〇五	—	—	—
香川	三二八	三二八	—	—	—
愛媛	一六四	一六四	—	—	—
高知	一三四	一三四	—	—	—
福岡	一、〇三三	一、〇三三	—	—	—
大分	一六二	一六二	—	—	—
佐賀	三六〇	三六〇	—	—	—
熊本	一、一〇九	一、一〇九	—	—	—
宮崎	六〇	六〇	—	—	—
鹿兒島	二八〇	二八〇	—	—	—
沖縄	九一一	九一一	—	—	—
北海道	二、四九四	二、四五四	—	四〇	—
「計」	四九、二〇八	四九、〇〇九	三	一六六	三〇

備考　本表中一家の窮境ニ出タル者ノ欄ニハ負債ノ爲ニ出タル者、孤獨賴ルニ所ナキ者、父母兄弟ノ稼業補助親戚竝幼兒ノ救濟養育ニ出テタル者等ヲ包含ス

娼妓となりたる事由は、備考に記する如き一家の窮境といふ複雜せる一因最多し。否な殆んと皆之れに限らると云つて可なり。蓋し今日娼妓となるものゝ申狀は、必すや父母に關する一家の窮境を以てせざるべからず、故に內實は幾多の事情存するも表面は之れに限らるゝは當然なり。普通の人情より推すも喜んで此苦境に沈むものなく、止むなく此に至るものと云ふへし、但し三重岐阜大阪新潟愛知の諸地方に於ては、一旦此の如き境に至るを敢て不德となさず、習俗として之を怪まさるの風あり、盛んに各地に向つて出稼を奬勵する如きは例外と云ふべし。（於山形東根認之八月三十日）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

家庭

夫婦恨

是空子

眺めて美くしく執りて忌わしきは、惣て物の常ながら、花ならば厭きて棄てもすべし、玉ならば思ひ切つて碎きもすべし、いと／＼爲ん方なきは、夫婦と云ふ嚴めしき蝶番に結ばれたる間柄にてあらんかな。春は浮立つを咎めず、人間の春と云ふ年少妙齢の折柄、詩歌の酒に醉ひ、戯作脚本の迷ひに溺れて、人生の樂事伉儷に如くものなしと一槪に思ひ込み、只管らに其が希望を畢生の目的とも見たらんなど、誰も一度は踏入る道とは云ひ乍ら、又誰とて後日慚恨の媒とせざるはなし。左りとてや、理想せし丈の樂しみの無きは固より忍ぶべし、並大抵の不平も固より勘辨すべし、獨り追々に意見を異にし、趣味を異にし、一歩の差、感情に養はれて五歩十歩の懸隔となり、次第に仲間遠くなりて心は千里と離れ乍ら、世間の手前、親戚の義理、子と云ふ分割しがたき共同の愛たきものなどにからまれて、思ひ切と、手を切ると同もに出來ず、鬱々として不平をかくし、朦々として目をねぶる程の伉儷こそ、世にあつて限りなきの悲慘なれ。其の顔蒼く、其の氣息低く、、元氣自からに起たず。靑天快活の眞晝間も、盛春爛熳の花の景色も、皆な心を引かず。多くは垂込め、又はヤケになりて、兎角亂調子の氣色のみせり。戀を冷笑し、婚儀を嘲けつて、花の宴と死の床を同一に觀じ、人を信ずると天より地に落下して、何事も面白くなく、遂に男は酒に隱れ、女は病に屈するに至る。抑そも、戀と云ひ、夫婦と云ふ麗わしき名は、如何に多くの人を弄そぶか。世に最大多數の殺人罪を犯すもの誰ぞと問はば、蓋し此等の美名を冠がれる惡魔なり。

男は尙ほ氣の晴し樣もあるべし、就中、哀れは女の上に降りぞかゝる。思ひ出でては、思ひまぐらさん種もなく、他に打あけて切めて慰さめとすべき人もあらず。なまなかに、理想とやら、敎育とやら云ふものを與へられて、盲にても濟むべき眼の開かれ、見まじと思ふものも見、思ふまじと思ふものも思われて、人並に越え心苦しきと多し。歸らんにも、心を

安んずる家は無く、死せんにも身後の名、亡後の愛兒を如何にせん。斷然、志を決して、盲となり、聾となり、啞となりて、唯一概に順從せんとすれど、惡運、頭らをもたげ、鬼、嘲弄して、あやにくに思ひ出ること頻々として生じ、遂に圓滑を失す。

左るにても、夫婦と云ふもの、何時の世より初まりて、子を互ひの結びとすると、何時の世よりの定めぞや。子に全心を與ふべきほどに、郎に全心を寄せられべきに、頑骨曲らず、我ながら自己の思ふやうに爲らぬは、何ものゝ所爲ぞ。我を生かして我を苦しめ、我を縛りて我を弄あそぶ。世に聖賢道德の嚴めしき聞えは多くあれど、我心中の疑を解かず。滑らかなる人情に折紙をして、義理とも仁心とも名を付け乍ら、遂に我がごとき心を顧りみぬは何事ぞ」と叫べども倫理學者は平然たり、學校敎師も仔細らしき顏のみせり。

「可憐にして無邪氣なる、世の幾多の姬達よ。學び玉はゞ、其の學びによりて、新たに起るべき種々の不平、憂悶、大疑などの快ちよく散らし得らるゝほどに學び玉へ、郎を撰び玉はば、十分に撰び、撰びしのちは、盲人となり、啞者となり、只だ一概に順がひ玉へ。之れ切めてもの世わたりならめ。詩人は自から經驗せぬ理想を歌ふか、もしくは現場に平ならずして、天を慕つて泣くなり、其聲を聞きて、何處の家にも此事あらんとは誤解し玉ふな。老ひて堅く、貞にして實なる昔し風の婦人方が、情花を開かず、情花を乾し、水氣もなく、甘味もなきまゝに、一生を兎に角、經過せられし其跡こそ、慕われぬ迄も、學ぶべき所ぞ。なまなかに、望むまじきこと迄で望めばこそ、堪へがたき程の不平とはなれ。望むも佳けれど、屆きがたきものぞと勘辨し乍ら、茲に大悟徹底して、世は皆な斯ゝるものと決着し、たゞ其儘に一生を送り玉へ。わざ〳〵切るにも離るゝにも及ばじ、離れしとて切れしとて、何處も亦た同じきことぞ。先きに又々空望を懷けばこそ、現在が一入耐えられずなるものぞと、深く覺つて近く辛棒せられよかし」と、やう〳〵に人に向つて言ひ出る迄となりぬる不愍の妻や、恨愁、涙万斛、胸は燃えて燒けて溶けて死して而してのちやゝ蘇生したる時、初めて言ひ得べく、斯る人の言ひ得てこそ稍や生命ある說法ならめ。

家庭のまぢりもの

稚翁

奥歯に物のはさまり足袋に砂の入りたる本來些細の事ながら中々氣になりて安んじがたきものなり家庭に余計のもの〻加はりてシックリと調和せざる時の不快は宛がら之に似たり言ひ出でて論ずれば話しにもならず人に語れば辛棒の足らざる樣にて所詮一々列擧すべき筋にはあらねど扨て實際に不都合不愉快なること言語に盡しがたし此等は局に當りて親しく經驗したるものならでは到底分りにくきものなり獅子は百獸の王にて猛烈比なし戰かつて敵に向うときは山岳崩る〻とも倚ほ退ぞかざるほどの氣象ながら耳に入り鼻にひそみてチク〳〵と刺す一小虫には敵しがたしとぞ戶外百万の反抗に恐れぬ勇氣を以てして家庭の不和不快に堪ゆる能はざるは此の故なり外に出で〻衣紋つくろふ人々も家に歸りては打くつろぎ寬濶氣樂に坐臥したきものにて家庭に於ては容赦掛念氣兼等の心配なきを第一とす然るに戶内戶外同一にて家の內にも伏勢あり權略あり黨派あり批評ありて二六時中氣を許すことの出來ぬ樣にては其の不愉快何如んぞや世上の風霜は倚ほ堪ゆべし戶內の雨もりは迚も辛棒の出來ぬものなり夫れ斯樣の不都合ありて彼も我も皆な同居を嫌ひ乍ら何故依然同居するかと問ふに眞に取るにも足らざる馬鹿氣たる事情の存するなり即わち經濟の許さ〻る故か事業の許さ〻る故かと問へば惣べて然らず經濟は同居の方入費少なき樣なれとも別になりたりとて二倍多く飮食する譯にもあらず竈を二つにする雜用は多きものと一概に言ひならわせたれど心地よく奮發勉强して收入を殖す工夫をすれば其穴決して埋めがたきにあらず僅か斗り費用が多く掛ると云ふ口實にて年中不快に暮し思ひ切り骨折も出來ず時には病氣など起すことを考え合すれば差引經濟に於ても決して得とは言ふべからざるなり左れば入費の計算にて別居を難んずる理由は採るに足らず又事業の上にて彼此申せども之も亦た言ひ譯に過ぎず其の爲に別居の仕悪き所以はある可らず左らば眞實の理由何處にありと問ふとき詰まりは世間を憚かり人前に心配して表面丈け麗わしく見せんとの飾りに過ぎず然れど之も亦た愚かしきこと也實際同居を樂しみ其の樂みが自づと外に漏れて人々も羨やむほどならば仔細なけれど內實は鬼の相鬪ふが如く醜聲悪聞自づと近邊近所に聞え町内で

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

知らぬものは只だ其家の人斗りなるに猶以て繕く飾り得たりと思わんは愚も亦太甚しからずや家庭の和らぎたると否らざるとは其門を入りて直ちに分るほどのものにて一種の空氣戸内に靄靆たらずば大抵のものにも家内のもやうやは察せらるるものなり左れば益もなき虛飾を爲して人前をつくり同胞親子情愛に引れて別居しがたき樣に言ひ做すとも實相早く世に知られて人の承知せざるを如何んせん眞とに詮なき次第ならずや其邊は一切磊落にて實際の落着を第一とし家庭の雜居は六かしきものと高をくゝり別居して各自の樂しみを維持し而して後ち親しく往來するに及かず封建時代の單位は家名にして個人にあらず一門一家戸内にゴタ〳〵して無理にも破綻を生ぜぬやう戒愼するが第一なりしかど今の時勢は之と異なる國内よりは續々海外に殖民し國内にても追々家を殖し戸數の增加は國力の增加にて竈の別々に賑はふを祝する程なれば無理に同居して辛棒不愉快に一生を送るなどは愚なるのみならず不經濟なり一家の爲にも一國の爲にもならず情を矯めて情に反き内外自他に何の益もなし此等は斷然改革し率先して習慣の束縛を解き奮つて新流行をつくる樣にすべきもの也。

愛なき兒童研究

兒童研究と云ひて近頃の流行なり、之も亦た西洋よりの流行にて、情けなきことと云ふべし。然し乍ら、研究せんとするは、せざるよりも可し、切めては多少發明の基ひにて、何かは善きことも來るべしとは思はるれど、其の研究を始むるに先だちて一事心に覺悟し置くべき要件あり、此の要件を知らずし流行に隨がつて着手し、可憐なる兒童を冷やかなる研究の材料として、鵜の目、鷹の眼のみにて視察し得たりとの、其の神相を看破せんこと、殆んど難し。茲に、人の肉躰を解剖するのみにて、生理の上より人間を評斷し、神變不可測の心理に就いて思ひ到ることなくば、人の眞の消息に通ぜんこと難かるべし。兒童を研究するに當り、單に冷酷なる智眼をのみ弄ぞび、溫たかなる愛の慈眼をもて照すことなかつせば、映ろふべきものも映らずして、たゝ其の形骸をのみ視るに止まるべき歟。夫れ、兒童を育てたるものゝ皆な知ることながら、彼の身躰に於ける異常を尤とも早く識認するものは、誰ぞと問はんに、たゞに智慧ある者にはあらず、啻に醫術の心得あるもの

にもあらず、平素尤とも切に彼を愛する所の人、其人こそ最初に彼が異常を發見し、熱もまだ高からず、咳もまだ出でぬうちに早くも之を覺るものなれ。之れ何故ぞと問わば、愛は尤とも聰明なる視察者となるが爲め也。男女間の愛は、之を盲ひにし、親子間の愛は、之を明とくす。何人にも先だちて早く其子を知るものは、只た愛、之を能くする耳。

左れば、兒童研究に從事するものは、深く此一事に心掛け、先づ之を愛せざれば、其の眞相を認ためがたき秘義に思ひ到らすんばある可らず。愛は春風の如し、之に當れば百花其の蕾を開く。兒童が、恐れず、隱さず、つくろはず、其の天眞を開發するは、愛の風に温ためられし時なり。又、愛は、人の見落すものを認たむ。愛なくんば、一視過眼に附し去らるべきものも、愛の烱眼はひとり能く之を睨らむ。愛なくして人の美所を發見せんとするは、美眼なくして風流を衒はんとするに彷髴たり。

且つ夫れ、小兒は大人の種芽なり。假令ひ、未だ伸びず、未だ露われずとも、他日大人として發露し得べき本然の天質は既に具備せるなり。而して、兒童に於て異なる所は、其の形未だ完からず、其現はれ未だ明らかならず、其の稱呼未だ適わざるのみ。即はちこれ研究に於て難きを增し、視察に於て明哲を多く要する所以なれば、兒童を研究せんほどのものは、少なくとも大人の研究に於て略ぼ得たる所あり、人生觀に於て既でに悟る所ろなかる可らず。其形大きく、其の現われ明らかなる大人の研究に於てすら未だ得たる所あらざる程のものが、奈何んぞ能く渾沌なる兒童の研究に於て、其琴線に觸れんや。

近來幾多の兒童研究なるものを聞く、殆んど抱腹絶倒すべきもの多し。暫らく之を學者間に流布するを止めて、試みに戸前の人の母に就て問へ、彼等も亦た一笑せんとする也。吾人は思惟す、研究するは研究せざるに優れりと。然し乍ら、從らに兒童を器具にして、之を弄ばんとするの弊なき乎。一知半解の視察を用いて、直ちに人の子の活潑の上に無益なる獨斷を課せんとするの弊なき乎。彼等研究者試ろみに此の般の流弊を省りみ、須からく頭等第一の先決要件を覺悟して、而して後ち温和着實に長年の研究を施すべき也。左らば、或ひは正當の報酬を收むべきを得ん也。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

妻の不平

某　筆記

●今時は、女學校出で無キヤア巾が利かない世の中ですもの、どうせ私供ナカ、時勢後れで、仕方がありヤア仕ませんワ。束髪にでも結つて、ハンケチをおもちやにして、何んとか斯んとか英語を雜ぜて話したら好いのでせうが、コンナ敎育の無い身分ですもの、倒さに振つたつて仕方がありませんのサ。

●夫でも、何んだか、コンナものが善いとか惡るいとか仰しやる時節もあつて、女は矢張り古風のが善いとか云ふヿで、親仁に御懇望で定まつたのだソウデス。ゴタゝをつく樣ですがネ。ですが、ホンノ流行りですもの、此頃は亦少々風向が變つたのだソウデス。すると「お前の樣に無學だからいけない、敎育のないものは仕方が無い」とか何んとか仰しやるんです。どふせ初めから斯ふなんですもの、今更どふするものですか。夫とも之で女學校へでも入れて貰ひますかサ。

●此間、お客があつたんです。何んでも、洋行歸りだと申すヿです。アンナのが、あちらの通人と申すものですか、大層ブン／＼香ひましてネ、其上、煙草の煙りで、何んだか御面相が十分おがめやしませんのサ。私は初めてゞすもの、チヤント、御挨拶を仕ますと、良人がいきなり、叱りましてネ、「ソンナ野蠻風にソコラニ座ると云ふヿがあるものか、立つて握手」と申すんです。握手て、ソノ手を握ると云ふヿなのです。ふだん、うつかり、ソンナ事を仕て御覽なさい、ドンナにちん／＼だか知れやしませんよ。

●何んでも、往來を亭主と一處に列んで、手を引合わない斗りにして歩るいて、余處樣に上つても、負ない樣に話して、遠慮なくシヤベルのを說を吐くとか申すのだ相で、夫が近頃はまた流行りかけたのだと申すヿでずが、どふして今更、ソンナ事が出來ますか、顏が赤くなりますよ。夫でなきや敎育が無いと云ふヿなら、無敎育の方が善ふ御座い升。

●一躰、男の方は、女を飴と一つに思つて居らつしやると見えますネ。圓くしたり、四角にしたり、色々に手でこねて、引張つて、其時々々の形にお造りになるのですが、女こそ見じめなもです。

●私の親仁は極頑固の方で、母も古風に敎えて下さいました

から、どふしても今更ソンナ風には出來ませんよ。少し西洋風と云ふのが這入りかけてさへ、コウですもの、彌よ雜居で澤山外國人が來でも仕ましたら、どふなるとでせう。私供は丸るで生れ變りでも爲なきや、立ゆきません。尤とも、夫がいよ／＼此分で推してゆくのだと定まりますと、亦其の心持で一生懸命になつたら、少しは眞似の出來ないともありますまいが、少し其の西洋風と云ふのに習ひかけるとになると、又々反動とか云つて逆もどしですもの。どちらが、つまり善いのか、七面鳥にでも生れなきや、うまくは出來ませんよ。

◉先づ然し七分三分とでも申しますのか知ら。人樣の前では西洋風。家の內では、日本風。外に出ましては、夫婦同等と云ふ工合に見せて、內に歸ると古風に旦那樣扱かひにするのが、お氣に召すと云ふとですが、木の手がしわ二重の扱かひと云ふ手づまで、私どもには中々眞似られませんから、「一生へイ／＼いたすとは搆ひません、人樣の前や、外に出て西洋風にするとだけは御免下さい、始終家の內の事丈けさせて頂だきたい」と、コウ申して居る所です。

◉アナタ方からも折々お手紙を下さいますが、毎度、失禮申

上てツイ御返事もいたしませんが、アレはどふか御免下さい、ツイ、ソンナ風に躾けられまして、男の方にあまり手紙を差上ないとに敎へられたものですから。女學校出の方は、隨分、ソノ邊は自由で、少しも御心配なさらない樣ですが、私供には、迚もアンナ大膽なとは出來ませんから。

◉一躰、アナタ方がお考へになつて、公平な處をお聞申したいのですが、男の方と申すものは、一躰どふしたらば善いので御座い升か。アノ西洋の女の方の樣なのが宜しいのでせうか。西洋でも、實際アー云ふのを男の方が好んで居らしやるのでせう乎。イクラ國風だと申しましても、何んだか、私供には受取れない所がありますから。

◉私供の不束な考では、男の方が、ホンノ其時々々のお癇癪でなく、女はコウとか、妻はコウとか云ふとを、チヤンとお書きになつて、妻が夫を身の愼しみにいたし、妻よりも又相應な所を申上ると云ふ樣にいたしては如何なものでせう。ふだん、之と言つて伺つたともなくて、其時其時に雷が落ちますと。何んだか天氣もよふが少しも分りませんで、始終落付ませんよ。アナタのお考はいかゞですか。

隨感

○衰へたる哉、師道

今の教育者とは古の所謂ゆる師なり。師道の發揮せざる、如今亦た太甚しからずや。凡そ、人、自から敎えざるときは、道の威嚴と、學道の痛苦とを知らず、故に他に求むると苛酷ならざれば疎漫、大事小事を顚倒し、巨細に要緊を失す、力むと雖ども何の甲斐あらん哉。而して、痛苦、而して威嚴を感得して、敢て自から人に施こすことを爲す時、胸廓一小天地を藏し、眉宇世界大を觀じ、猛然として自立、奮然として自期する所のもの痛烈ならず、安くんぞ能く人の師たるや。今の教育者は、人に倚りて立んとす、何すれぞ自己の本領と、抱負と、經綸とあらんや。更に甚はたしきは、人に敎え得べき區域を政府に問ふて决せんとす。政府の好まざる所は、之を言わず、政府の懌ばざる所は、之を說かず、循々然として唯だ政府の爲に役せらる。果して、人の師か、もしくは奴隸なるか。我未だ自己の主張なくして而して能く人の師たるものあるを聞かざる也。憫れむべし、一文部大臣を敎育界の法王とし、唯だ隷屬の足らざるを懼る。夫れ、今の教育者の希ふ所は、果して何者ぞ。譽れか、汝、孰によつて譽を得んとするや、汝は其の敎導せんとする所のものより名譽を求むる乎、思はざるも亦た甚だしからずや。汝もし二三子に其の得たる所を傳ふるの快味を覺らず、天上天下唯我獨り存して而して微笑、理義を樂しむの經驗なく、或ひは、學生を招かんが爲に廣告し、若くは、其の數の多きを誇りながら、茫として自己心中の寂寥を省りみることだにせず、淺劣の極にあらずや。此に至つて、我に古師あり、先哲の跡、萬古に存す。一生の風懷何んぞ高潔に、何んぞ雄豪なる。假令ひ我性の陋にして、我力の小なるとも、冀わくは倚つて以て此に學ぶことをせん。滔々たる今の學校長先生の如きは、遂に其の何事を樂しとし、何事を大なりとせらるゝかの消息を解するに苦しむ夫れ、今の文部大臣をして、己が儘に、訓令を發せしめ、之に屈從して毫も反かず、唯々として彼を法王とするが如き今にして其の卑劣なるを咎むるは抑そも末なり、本來其の

期する所の夙に誤まりたれば也。慨せずや、世上師道を以て任ずるの夫子、自から可なりと信じ、自から緊要第一等と信ずる所のものを、一行政官の支配の爲に隱蔽し、削除し、遠慮するを得る乎。斯の如きは、抱負なく、主張なき教育者にして、固より力然として敢て人に教えざる可らずと自信すべき者を所有せざりし也。夫れ、我になし、安くんぞ之を他に與へんや。寧ろ初めより教えざるに及かず。

○庭の石燈籠

月無き夜は、庭の燈籠に火を點ず。出入の人も便りよしと言ひ、風雅の友は別に趣きありと言へり。此等の人既に去つて家の族も皆な床に入りし後、燈籠の火、ひとり照らす。我等は最早寢ぬるなり、汝獨り眩くやと言ひつゝ、樓に上る。三更ふと目ざめ、万籟寂然たり。戸を推して庭を眺むれば、彼は尙依然として明かし。

○燈火明滅

海舟先生が、藩閥及人の末路を觀じ玉へる、是と異なる、

かきたてば油の盡きんともし哉。

雜錄

鎌倉より

紫苑山人

ことしの夏、いつくにか住みよき里を、見出し得んとて、都をたち出でし日、途にてよめる、

假そめのやどりなりとは思へども
なつはすゞしく家居してしか。

かくつきあたりし所は、俗の人多かりといふ、鎌倉の里なりけり。あへて吊古の史料を求めんにはあらねども一年の夏、藤村、秋骨のぬし等と、共にありし地なれば、懷舊の情なきにしもあらず。今や秋骨ぬしは、山口の高等中學に、藤村ぬしは、信州小諸にあり。

共に見し昔のかげをしのべとや
きぬはり山の月はさすらむ。

來し頃、氣象定らず、風さへいと强かりければ、

ものすごき由井が濱べの小夜あらし

波のたかさをおもひこそやれ。

枕さへゆるぐばかりの音たてゝ
なみにこたふる濱の松かせ。

かくて天晴れければ、

ふきあれし嵐の空はをさまりて
海原とをくすめる月かな。

或る日大きなる龜の、引き網にかゝりければ、

大和田をわが萬代としめながら
いそべをさしてなにか來にけむ。

濱邊をそゞろありきせし時、

湯あみして濱への丘にわが立ては
おほしまあらし袖はらふなり。

大島のいそをあらひて寄せつらし
七里か濱にさわぐ白波。

雪のごとき潮おびなからいかなれは
みやこをとめは黒くなりけむ。

濱松はなほき姿そなかりける
ふきよす風にうちなびきつゝ。

たきゝこる鎌倉山に日は落ちて
葉山の里に見ゆるともしひ。

大佛にまうでゝ、

百とせを六たひかさねて今もなほ
ゆめのこの世とをしへかほなる。

ゆめの世をゆめとさとるもゆめなりと
さとりかほにもみゆる佛か。

五郎入道正宗の跡なりといふ所をすぎて、

まさむねのむかしのあとをきて見れば
今はとなりに鍬かちそすむ。

又ある時、

今こゝにむかしとぶらふ我もまた
やかてむかしの人となるらし。

うなゐ見か濱のまさごにかきし名の
波にきえゆく我世なるかな。

又道の友にかたらひて、

朝なゆふなこゝろの友とうちとけて
かみをたゝふる折のうれしさ。

わか哥ふ頌への哥にあはせけり
　磯のしらなみ峯のまつかぜ。

月を見て、
　みどり見は何おもふらむいたき居れは
　　月にむかひ飛はんとする。

東海島貫ぬしと、月の夜、濱邊をありきて、
　しほあびの人はかへりし磯のへの
　　わらやをしめてこうろぎのなく。

月のほるふもとの里はくらかりて
　ともしびのみぞ見えわたりける。

珠と見てあらそふ龍に似たるかな
　つきすむ磯によする荒波。

打よするあら磯なみにくだけつゝ
　こゑある月のかげを見るかな。

てる月のかけにきほひて鈴むしの
　ふりづるこゑのさやかなるかな。

月かけはかゝみなるしらいろ〱に
　かけてむかしの忍はるゝかな。

我宿の朝がほの花を巖本ぬしのおくられし、かへしに、
　君なくはいかてか知らむ我やとの
　　さかりにさける朝かほの花。

清軒丹羽ぬし、亞米利加より歸りぬと、攝州三田より、便しければ、かへし、
　なによりもうれしかりけり歸りぬと
　　西よりかよふ秋の初風。

家をおもひて、
　我やとのかきねにうゑし萩の花
　　いまかさくらむかへなんかいざ。

ある日、夕つかた飄々乎として、有美青柳ぬし旅の裝ひしながら、裏口なる甘蔗畑より、入り來ければ、
　いつくまて道踏みやふり行かんとす
　　あかき毛布に背のあみかさ。

家をいてゝあまり遠くはあらねとも
　みやこの友はなつかしきかな。

悪魔の雅歌

悪魔の子

●戀の電雨

濡れまじと
かざせる傘を　かたむけて
　卿戀ひしやと　ながむれば
　情けや胸に通ひけん　卿の瞼に光あり。

まゝなれや
濡れては乾らぬ　戀ひ衣
　その濡れ衣に　身を窶つし
　死出の三途の河までも　共に浮名を流さずや。

●戀歌一束

卿　眉をひそむれば　我が心閉ぢ
卿　微笑めば　我が心開く
焚きしめ給ふ　蘭奢の薫り
ボルトウの　濃き酒さへも　及ぶまじ
酔へりや酔へり　我が心

＊　＊　＊　＊　＊

卿を憶ふて　暗涙潜たり
　雲か　霞か　呉か越か
　柳眉　長久に閉ぢて　陽氣跡なし
春風來　春風來
　雲霧を排して　微笑めよ　卿！、

＊　＊　＊　＊　＊

狂蝶の　花を慕ふて　舞ふがごと
　卿が御姿　我れ追ひて　萬里の波濤　渡らまし
蜜のありやと　我れ問はゞ
　如何に答ふか　卿が心は

＊　＊　＊　＊　＊

卿　歌ふなよ　三味の歌
卿　奏づなよ　三味の絲
怪しの力籠ればか　我れは涙に身をくづす
　響よ響　聲よ聲
　胸を砕かん砲の音よ
　　あはれ　我が呼吸　絶ちねかし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○市川女寅

女學雜誌 美術記者 有美

福助の品彩、素より高く美はしきものあり。榮三郎の風貌、素より優ぐれ秀でたるものあり。されど藝術のこと、未だ之を二子に許るすべからず。福助は活動と巧妙とを欠き、榮三郎に至りては、その技稍々福助を抜くこと一頭地なりと雖ども、猶ほ生氣とエキスプレッションとの足らざるものあるなり。故に、今の福助と榮三郎とに嘖々喝采するものは、之を藝術にとらずして其風貌に取るなり。我が市川女寅は、その容姿の麗美なること、素より榮三郎福助の二子と並ばず。是を以て、凡俗の人氣讃賞を買ふに當らずと雖ども、其技藝の拔群なるに至りては、當今劇界にある男女兩役の後進俳優中、恐らくその右に出づるもの、一人だにこれなからん。所作身振りの巧妙にして活動とエキスプレッションとを備ふるは云ふまでもなく、その一擧手一投足一睨話に至るまで、徹頭徹尾、眞摯にして生氣に充たされざるはなく、かの浮華是れ事として、徒に人氣の盛ならんことを希ふ今の演藝家中、甚だ多く見易すからざるところなり。故に我れ女寅を稱んで終始五分の間隙だになきものなりといふも、蓋し過言に非ざらんか。たゞ惜むらくは、かゝる拔群の技倆ありて、しかも男役とならざりしこと之れなり。我れ不幸にして故市川新藏を知らず。されど、我が女寅にして若し男役たりせば、後の日に、今の市川團十郎が門を嗣ぐべきもの、必ずやこの人なりしなるべし。夫れ市川女寅は女方となりて、既に福助榮三郎を凌駕するの技倆あるものなり。されば之をして一たび男役たらしめばかの片々糠亮の如き染五郎家橘等一聯の徒の、來りて其履の帶を解くにも足らざるは、素より論なし。我れ斯くして女寅のために思ふこと茲に三年。しかも、世の未だ丈を嘖々歡迎するものあるを見ず。觀劇者流の盲目も茲に至りて極れりといふべし。その片足を展べて『擣へ砲』に似たる態度となり、つゞめる人の名を呼びとめて、其本体を看破する如き、特に其長ぜるところにして、殆んど神に迫るものあるは、我れの數々觀て以て感に堪えざるところ。嗚呼、我れに若し餘すべきの金あらば、せめては引幕一枚を獨自に贈りて、滿腔溢るゝばかりの同情を、些か實現し得べきも、貧寠、能はず。悲しき哉。されど、流石は英傑團十郎なり。その曾て大坂に下るや、地方の有力なる反對あるをも顧みず、斷然我が女寅を伴ふて其あひ役たらしめたり。蓋し彼れが技に觀るところありしの故乎。我れ之を思へば、些か慰むるものなきに非ず。嗚呼、英傑團十郎、願くは我が女寅を保護庇育し、之れをして其の處を得るに至らしめよ。劇は色を賣らずして藝を賣るにあるものを。

○晩翠のから評判

有美

近頃、片腹痛きは晩翠のから評判なり。如何なれば『太陽』の記者は、號毎に晩翠のため辻占賣の如き小さからぬ提燈を持ち給ふ乎。其勞苦寧ろ憐むべしと雖ども、我れは文士たる晩翠のために、深くこの事あるを惜む。詩は永生のものなり、如何ぞ俗世の喝采評判をのみ是れ計るべけんや。然るに何ぞ、高林學士等の力を借りて、徒に空名を博ふせんとするの跡あるは。如何に其聲を高くし、藤村の名を揉み消して、晩翠即ち是れ日本唯一の新詩人たるの譽れを得んとするも、世を擧げて痴愚に非るよりは、其奸手段に迷はさるゝもの稀なるべし。世の正直なる人々よ、晩翠の評判はから評判なるぞよ。

○藤村死せる乎

同

我が詩人藤村逝ける乎。新婦を携へて木曾山中に入りしより茲に數月。杳乎として其聲を聞かず。新作ありや、大作ありや。都の世界は山中の如く靜かならずして、晩翠は靑々鬼の居ぬ間の洗濯に忙はしく、切りに其領土の侵畧に勉むるが如し。藤村たるもの今にして沮喪せば、天下後世までの物笑ひたらん。人の倒るゝは失意の時に非ずして其得意の時にあるものを。詩は迷ひ悶へるものゝ產なり。されど更に大なる詩は醒めたる時の產なり。藤村今や戀のまぼろしに醒めたればとて、豈に詩なきの所因あらんや。蜜月は早や過ぎたり、聲を擧げて新らしき人生を歌はずや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○不具の見せ物

有美

世に不具の見世物ほど、人類の恥辱なるはなし。されば、不具もし同胞の間にあるも、之を隱くして人目に觸れしめざるこそ、人間の至情なれ。然るに、殊更ら之れを見せ物にして、その具らざるを相見て談笑し、又之を見せて衣食の料を得るとは、何等の無殘ぞや。之をしも下等動物に知らしめば、人類の不面目、この上なかるべし。最高等動物と自稱する人間、何のかむばせありて能く禽獸に對するを得ん。不具の見世物は、實に蠻風の甚しきものなるを。政府たるもの、宜しく其當然の權能によりて、この種の興行を禁止すべきなり。是れ即ち人類の面目を保持し其蠻習を洗ふ所因なり。

○美妙齋主人

同

これを天品の才に就ていはば、山田武太郎美妙齋子の如きは、遙に今の紅葉露伴の上にあるものなり。不幸にして一たび社會の折るところとなりしより、遂に倒れて二たび起たず、僅にたゞ其餘影を一二の雜誌に止めて、世は『山田美妙齋』のあるを忘れたるが如し。予が消息今如何なるものありや。病根或は未だ全く絶えず、其處此處の手取り女など誷かし廻りて、其の生き血を吸ひ、その金錢をせしめて、漸く衣食の料を得つるには非ずや。是れ素より自ら招ける厄運なるべしと雖ども、徒に窮鳥を追ふて死地に入れ、自暴自棄の悲境に沈ましめたる逍遙居士等の罪、また決して淺からず。社會の、美妙齋子を責むることと、稍々酷に過ぎたり。予や意外の正直ものなりしを。若しまことに奸黠惡むべき程のものなりせば、如何でか、かほどの論擊に倒るゝをせんや、恬然耻ることなくして、今に至りしや必せり。かの當時、しきりに辨解せんと試みたるが如き、寧ろ稚氣の殊勝なるものありて愛すべきに非らずや。思ふて玆に至れば、少時美妙齋子が無類の崇拜者たりし我れ、眼に萬斛の涙あり。

○文士の求婚

同

義太夫語りが、咽喉でめし食ふ如く、筆で飯くふ文士といふは、かくほどに難有きものにや。『それがし事は近頃新聞雜誌にて其名も高き文士にて候。この有名なる文士を亭主に持つとは、仲々以て尋き榮譽ならずや。依て、澤山の持參金を致さずば、嫁には貰ッてやらぬぞ』と。かく嚴めしき天狗の權幕を、文士婚を求むる時の口上とす。されど思へば、かゝる權幕も亦無理なきことなれ。俳優市村家橘の許ならば、何千何萬といふ大金を持參してなりと、嫁ぎ申すべしといふもの、其處此處の藝者仲間に數おほしといへば。玆に至りて、家橘と文士と、相去ること幾何ぞ。

○畫士小堀鞆音

同

其友は皆な西洋畫にかぶれ、競ふてその筆致を摸づし、切りに奇警世の俗眼を驚かさんとする時、純然たる土佐派の流れを享けて、終始變ることなく、オルソドックスの筆を取るもの之を畫士小堀鞆音氏となす。純然たる日本古畫法の、果して美術の眞體を得たるものなるや否やは、我れ今措て之を問はず、たゞ其古法を墨守して毫も怖るゝところなく、世間轉變の上に超然たるの意氣、頗る敬すべく又多しとすべきをいふなり。小堀氏たるもの夫れ自愛せよ。

○鯉之助の技

桃花

義太夫曲の年少奏演家中、故住之助以後、われは獨り竹本鯉之助を推さんとす。鯉之助、貌甚だ昴らず、且つ俗に媚び時に阿れるを敢てせざるを以て、嘖々の盛名なしと雖ども、其卓絕の技や具眼者の夙に認むる所なり。昨年二月、われ始めて渠を晉町の某席に聽き、其非凡の技倆に驚き、爾來敬重深く措かず、千里を遠しとせずして、之を聽くもの數十回、その麗ならざるの故を以て、人氣を博ふする能はざる風貌さへ、一點の俗氣を帶びざるところ、昴々として却て欣仰すべき氣品を備え、覺えず我れをして傾倒せしむるものあり。其技や誠に天來のインスピレーションに充ちたりといふべし。『小磯か原』や『袖萩祭文』や『中將姬』や、『時雨炬燵』や『合邦』や『湊町』や、かたる所凡て技藝以上一種の生命ありて、聽者の血を沸かさしむるもの、蓋し狂熱あり風情あり自ら無我の境に入り絕頂の地に上るに非ずんば、焉ぞ斯の如くなるを得んや。是れ實に我が藝苑の珍とするところに

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

して、汝々たる世俗に歡迎せられざる所以ならんか。今や一たび其揚げたる招牌を下ろして、切前の位置にありと雖ども、之を以て毫絲も眞技の價値を減ずるに足らざるなり。その兼花京子濱之助小豐後等、鄙陋賣色の徒に等しき所謂『花形』なるものに隨喜する俗社界と相容れざる、寧ろ榮とすべからざらんや。鯉之助たるもの、斯る淺薄なる人氣に顧盼することなく、發奮自重、其天稟の才を研くべきなり。社會の薄遇は、皇天の天才を激勵する『可愛さの鞭』なりと知らずや。穴賢。　六月卅日稿

○女子之友記者に答ふ

小川桃花

女子の友記者足下、足下は其第四十九號の紙上に、女學雜誌を戒むと題し、彫蟲の小技を弄して、漫に女學雜誌を垢罵せり。我は今、竹本素行訪問記の筆者として、其記事に關して、足下に誨ゆる所あらんとす。

足下義太夫節の奏演家を以て『矢場女と並稱せらるゝ』と云ふ。然れども、これ何人の稱する所ぞ。足下一流の蒙昧なる世俗の稱する所に非ずや。足下は其紙上に文字の形を印するを能くす、足下は文字を解す　ものなるべし。足下試みに思へ、義太夫節の奏演者は何故に矢場女に等しきか、何故に陋醜なるか。足下は義太夫とは何なりやとの問ひに答ふる　辭を知るか。若し知れりとせば、焉ぞ斯る暴言を他に加ふるを得んや。知らずして之を云ふか、漫罵に非ずして何ぞ。漫罵は、責任を知り、公義を知る文士の所レ爲に非るなり。

記者足下、足下は沙翁の尊ぶべきを知らざるか。沙翁の尊ぶべきを知りて、近松門左衛門の尊ぶべきを知らざるか。近松の尊ぶべきを知りて、竹本義太夫の尊ぶべきを知らざるか。義太夫の尊ぶべきを知りて、素行の尊ぶべきを知らざるか。抑々亦これら總ての尊ぶべきを知らずして、唯、黃金、人爵門地閥閱、曲學阿世表面に方正を飾るとの尊ぶべきのみを知るか。我、私かに思ふ、足下が理想の國家とは、社會とは、木と木と相離し、鐵と鐵と相搏つ、豕の鳴聲以上、器械の轢る音以上の響を發せざる人園否、動物園否々、器械園なるべしと。知らず、當れりや否や。足下は花の開くを見て醜となし、蝶の舞ふを見て陋となし、固燥蝦の如くならずして喉を喜ばすに足る佳味の、食膳に上るを以て、不平に堪へざるものなるべし。足下若し、否と云はゞ、足下は情を矯め、文を舞はして、強て方正を衒ふの僞君子なり。

足下又云ふ、記者は素行の素行を知れりやと。否、我は知らざるなり。唯我は義太夫節の演奏家竹本素行の幾分を知るのみ、我は箇人としての渠の些しをも知らず、然れども我は之を病まず。我の訪へるは、尋常の一女性としての市川花（素行の本名）に非ずして、義太夫曲の奏演家としての竹本素行なればなり。足下は藝術を人物と同一の物なりと思惟するや。何ぞ其識の幼穉なる。足下は富嶽の高を論ずるときに、琵琶湖の深きあるを病んで其高を否定せんとするか。多くの天才を見よ、多くの偉人を見よ、足下の愚と雖ども聊か我が言に悟る所あるべきか。我、試みに足下に一反問を呈せん、足下が毎々其惣花主義として紙上に掲ぐる、幾多の人物の、皮膚一枚の下に、如何の血液の流るゝあるを知れりや。又問はん、竊淫の女と義太夫の奏演者と、何れか尊き。我は足下より此答へを聽かんことを望む。蓋し神聖(?)なる足下の雜誌に麗々と遊女龜遊なるものゝ賞讃するを怪めばなり。又問はん、虛飾を加へずして純潔なる感を、眞摯に吐露するとが、何故に爾かく陋醜事なるや。

僞善者よ、先づ汝の目より梁を去れ。

片々

◉新内助　山脇玄氏時事新報に於て述て曰く、日本の婦人が其夫に及ぼすの感化力の分量を覺知し内助の功を全ふせられんとを望む。世間の内君が盡く彼商家の神サン達の如く、我夫の職業に關する大畧の智識を具へ相談相手となり得んとを望む。役人の妻が役所向の事を心得、議員の妻が政黨邊の事を心得るは、恰も彼小間物屋の神さんが小間物商賣の筋道に通じ、下駄屋の女房が下駄商賣の案内に通じたるに均しく、極めて必要の事と信ずる也。……日本婦人の勢力は表面に於て甚だ微々たりと雖も家内に在りては尙ほ偉大の感化力を有するものにして、夫の不行跡を匡正したるの例も乏しからず、今若し我婦人にして世事の眞狀を審かにし、公德の沈淪に激する所あつて奮然立志其夫に向つて親切の忠言を進むるあらんか、弊害の矯正敢て難きに非ず、若し我婦人にして此覺悟を爲す能はずと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

せば、いよ〳〵以て柔弱暗昧の誹は免かれざるべし。

◉妾の善後策　時事新報の社說曰く、今後の妾たる者は、男子に對して十分の待遇を求め、平素衣食住の贅澤は勿論、假令ひ男子に離るゝも生涯獨立して安樂に一生を送るに足るべき資產の分與を最初より契約して始めて一身を托すべし。

◉家庭教育の不整理　と題し、憲政新聞が論ずる所によれば　槇田ノブの不倫も、府下矢口村河田春信が妻トヨの其姑及夫を殺傷せる如き、皆な家庭教育の突飛不整理なりしより來ると言ふ也。遂に曰く、徒らに歐化主義を執りて、彼の昔日の武家は武家たり、商人は商人たるゝ自然的家庭教育の美を忘るゝを惡むと。凡そ一二の異例に驚ろきて直ちに大躰を忘るゝもの、悲觀的偏見的保守家の常也。

◉貴族の家庭(妾及び庶子)　三宅雪嶺曰く、妻を擇ぶの際、畜妾の必要なき迄に精選し、而して尙ほ妾を置かざる可らずば是れ其不幸のみ、妾の其擧ぐる所の子と母子たるとを妨ぐるが如きことある可らず。兒の性癖を知るは母に若くはなし、貴族の兒を人任かせにするは、焉んぞ其の之を疾病に喪ふの主要の原因たらざるを知らんや。

◉大谷派の跛教育　とは女子教育を欠くの謂なりとて、齊藤唯信氏一案を立して曰く、有德の僧侶一年に百日兗の割に便宜の寺院へ小學校高等科を卒業した位の女子を集め之に眞宗の教義を聽講させるにありと。

◉下女問題　時事新報は外人の內地雜居追々熾んなるべしと述べて且曰く、日本人には些末事に似たれども西洋人の生活上に容易ならざる難問題は下女の始末なり、然るに今ま家を擧て日本に移住する時は、此難題を一擧に消滅せしむる者にて重荷を卸したる心地するものならんと。

◉美人共進會　帝國の道德は今や美人を賤しみ、帝國の學術は今や美人を疎んじ、帝國の習慣は今や美人を奬勵せず、これ實に日本人種を墮落醜穢ならしむるもの也。世もし工業を奬勵せんとして工藝共進會なるものあり得べくば、豈に美人を奬勵するの美人共進會なきの理あらんや」とは、有美君が存外に美人多き秋田の新聞に於て慨せし所。

◉婦人躰育論の虞姬　千代田日報の婦人躰育を論ずるこそ面白けれ、層々段々、奇々妙々、巧みに意外の例を擧て論證す、才と云ふべし。其の第五に曰く、木曾義仲戰敗れて訣を其妻藤原氏に惜み、新田義貞賊を逐はんとして別を其妻勾當內侍に惜み、戀々として去る能はざるもの猶ほ項羽の虞姬に於けるが如し、此二人の妻や其姿色の美なると虞姬の如きなり、而して其躰格の如何を知らず、其武勇の如何を知らずと雖ども、此二婦や子あるを傳へられざるもの、安くんぞ其の躰格の發達せざる終に子なかりしに由るにあらざるを知らんや、若しも之をして子あらしめば則ち如何、吾人必らずしも其父に似て英雄豪傑の士なるとを信ずる能はざる也と。何んぞ立言の奇なるや。

(六二三)

◉女生の袴　女生に袴を着けしめたる疑問に對し、長野の渡邊敏氏、仔細に解答を與へたるもの十二條　太はだ信切　甚だ周密なり。然し乍ら、今の教育家と云ふものが、如何に小さきとにのみ屈托疑惑しつゝあるかの事情歷々見るべし。熱心家渡邊氏などを苦しむる世上小疑問の程度明かに推知せらる。

◉基督教派の學校の反抗　文部省の訓令に對し、下の如き書を送られたり。曰く、拜啓去る八月十六日青山學院麻布英和學校同志社立教中學校明治學院名古屋英和學校の六基督教學校代表者は東京に會合し今般法令の規定ある課程を有する私立學校に於て全く宗教を禁止したる文部省　訓令に對し如何なる態度を採るべきかに付き協議を盡せり今該要點を訓令に因て影響する基督教學校の代表者並に役員諸君に向て陳述し御思考を仰き度候日本帝國憲法は信教の自由を與ふ然るに文部省の訓令は以前より一層明白に又嚴重に政府の認可を有する諸學校に宗教々育並に宗教的儀式を禁止せり文部省の此態度は子弟の教育を撰定する父兄の自由を檢束するものにして帝國憲法の精神に反戾するものと信し候吾人は固より文部省が公民の租稅を以て維持せる公立學校に向つて此の如き制限を與ふるを批難するものに無之候へ共個人の資產を以て維持せる私立學校に對して同樣の制限を付するは不當の至りと存し候殊に此等の制限は基督教學校をして政府の認可とこれに附隨する種々の特權を得る能はさらしむるものにして基督教主義の上に立ら基督教徒の祈禱と寄附金とによりて成りたる基督教學校が苟も其重要なる原則と學校の生命より基督教を排除するは吾人が共に信ずる主に對して不忠にして且つ吾人か學校を補助する教會に對して亦た不實なるものと存候願くは基督教諸學校の職教員が此事件に對して確然不拔の態度を取り政府の特權を得る爲め或は之を維持する爲め毫も基督教主義を讓與せざらんことを。書記、元田作之進。

◉ベルツ氏の女子躰育　其改良意見七ケ條。一に、帶は巾を狹くし、地質の軟かきを用ゆ。二に、袖を短かくす。三に、小兒の附紐を太く且つ低くす。四に、大人の帶も、胴より下に結ぶ。五に、足にまつはる衣服の改良を案ぜよ。六に女生袴を穿かば、衣服の丈は膝位にすべし。七に、束髮にするか、左なくば工夫あるべし。

◉大隈伯の女子教育談　大隈伯女子教育に關し人に語て曰く四千萬の國民と云ても內二千萬は女子である然るに此女子は未だ國民としての待遇を受けては居らぬのである分けて社會の風教を維持して道德を進むるのには無邪氣なる女子のコンモンセンスが發達するを最も大切である今日道義地に墜ち人心腐敗したのを救ふには女子教育を盛んにするより外はない女子の男子に及ぼす勢力は非常のものである貨幣制度は金貨單本位で宜いけれども人類の上では男女兩本位で無ければいかぬ、現に男女兩本位の歐米各國は繁榮して男單本位の東洋は振はないではないか須からく女子教育を盛んにして國民たるの働らきを爲さしむる樣盡力しなけ

りやならぬ云々（讀賣新聞）經濟雜誌記者曰く、男女は貨幣に非ず、其の一方を以て他方を度られては困ると。

⦿廣東婦人の日常　風姿鮮艷たるに似もやらで、最も活潑に、且つ最も勤勉なるは廣東婦人を以て其魁とせざるを得ず、他部落婦人の如く阿片の吸食もなさず、且つ頗る節操高かければ隨て淫猥なる所業も尠く、夜中淫を賣て食を求むるが如きは斷じて之れなしと云ふ、婚姻は其夫たるものゝ資産如何に乏しくも如何に其日を過ごす能はざる程の赤貧者たりとも、少しく學識あり智能あり勤勉なるものならんには、貧は時の運なり又何時如何なる幸運に接せざるなからんやと、毫も其夫の貧富に拘泥せざるもゝ如し、故に入嫁以來極めて親切に夫に仕へ、夫の業を助くるなり、由來全地にて最も重んじ最も唱道する所のものは、讀書耕作なり、讀書は夫の業にして、耕作は婦の務なり、蓋し從來傑物の全部落より頻々として出でしもの、豈偶然なりと云ふべけんや、全婦人の平素自ら任じ、而も且つ之を行ふ常務なりと云ふを聞くに、婦は必ず朝拂曉に床を脫し、先づ髮を梳り鬢毛を散らさず、次に朝食の仕度をなすと仝時に、昨夜來の食器を收めて之を淨ひ、夫に朝食を供し之より衣裳などの洗濯として河に往き、了へて田園の事に從ひ、寸時と雖ども徒らに過ごすことをなさず、其余輩が萬巒庄より、內埔に到るの間、路の兩側に耕耘に從事するもの、或は稻苗を採り、或は植付をなし、草を去り、稻田を耕す等、種々の方法を見たるも、凡そ之に從ふものは婦人にして、男子は偶ま之れありとするも、極めて僅少なりしなり、婦人の耕作たるや、我內地に於ても勞働社會にては、敢て珍らしき話にあらねど、兎に角全部落に於ける婦人は、家の貧富に關せず、必ず之に從ふものとして且つ以上の如く勤儉なる點に至つては、蓋し我內地婦人の數歩を讓る所、況んや遊惰奔逸に流れし本島全躰の婦人輩に至ては、其差雲泥月鼈の比ならんや、故に全地方に於ては從來投機的事業のあるなく、又商を疎んじたれば、巨萬の富を致せしもの少く僅かに內埔街に於て二萬圓位の資產家は三四人に過ぎずといふされど又それ丈け貧者も少く殆んど飢渴に苦しむ如き慘狀は之れなしと云ふ、之れ全く婦人の能不能に因するなりとぞ、（「臺灣」八月廿九日）

時　報

○皇太子妃選定と古典

中世以來　讓位の事盛んに行はれ皇子未た丁年に達せられざるの前より父皇は早くも上皇と稱して位を皇子に讓らるゝの例、多く從つて太子、成年を過ぎて即位せられざるの例は絕無なりき然れば中古以前は知らず千有餘年以來、太子にして妃を迎へられたるは稀有なるが如く現に今の皇太子嘉仁親王殿下が妃を迎へられんとするに就ても先例を近世に求むること頗る困難なりといふ千年以前の昔には皇太子妃の事も歷史に散見する所なれど然りとて皇太子妃の冊立に關する儀禮などの書き傳へられたるものは有らざるべく之を古老に質さんとするも皇室式微の際に衰て立ちて太子の妃を選定せられたる例のなきより誰ありて之が古典を知るものあらず直ちに立后の典を立妃の場合に當て篏むるは少しく不倫の嫌を免かれざるべく然ればとて今日の皇太子妃は他日の皇后と定めらるべきものなれば其典例を踈かにするは至當の道なるべし外國にては太子の妃を定むるの例、少からずと雖も我國の帝室に關しては直に外國の例を採用し難きの點もあらん例を內に求むるの困難と外國の長を折衷するの困難とは共に廢典を擧ぐるの上に於て免かるべからざる所ならんといへり來年春秋の好季を期して擧行せらるべき皇太子御結婚の儀式に關しては其筋に於て取調中にて右等の事情あるが爲め取調上、最も愼重を要し當局者も頗る苦心し居る樣子なれど妃と定めらるべき令孃の人選は略ぼ內定し皇太子殿下の思召も決定するに至らば遠からずして結納を令孃の生家に賜り內定の趣を宮內大臣より告示するに至るならんとなり。

○華族の婚姻

憶ひ起す、本年七月廿一日、宮內大臣田中子、督部長岩倉公の名を以て特に下されたる訓示、左の如し

華族婚姻の儀に就ては明治元年宮內卿より督部長に訓達する所あり其後明治十七年華族令の發布あるや同令第九條に於て婚姻の件を規定せらるゝに至れり抑も婚姻の儀は齊家の基本に付華族に在りては其品位を保有し其榮譽を維持する上に於て愼重の考慮を要するは論を俟たず就ては將來一層其配偶の撰擇を愼み華族の禮遇名稱を辱くるを愧ぢざる樣篤く注意せられんことを望む

明治三十二年七月二十一日

⦿東京女學館の改革　女子奬勵會の設立に係る虎ノ門內の東京女學館は此度大改革を行ひ館長水野寅次郞氏其他の事務員殘らず辭職し更に女子奬勵會長土方伯を館長とし同會評議員外山增島澁澤富田等の諸名士を校務の監督に任じ尙ほ科程は從來の一二年級を廢して三ヶ年とし高等小學全科卒業以上の女生徒を收容する筈にて校則なども十分嚴重にすることゝなれるよし

⦿裁縫術講話會　去四日午後四時より神田青年會館に於て裁縫專科教員養成所長小出新太郞氏が日本服裁縫術に關する講話を爲せり。因に云く、同氏は富士見

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

町二丁目廿二番地に其教授所を置く。

◉石川縣立女學校設立案の否決　石川縣の問題となり居たる縣立女學校設立の事は當局者に於ても次年度に於て是非實行する積りなりしが金澤市立の女學校を擴張して多少地方税より補助を爲し間に合せ置かんとの議、縣參事會員等の間に起り縣立女學校案は縣會の議に上らずして當局者の手に否決されたり。

◉新潟婦人慈善會　去月八日發會式を擧げたり。

◉裁縫講習會　去月神戸尋常高等小學校に開きたる裁縫講習會は同廿七日閉場し二百十八名に證書を附與せり。水戸の太田裁縫學校の期講習會も去二十八日閉會し、甲種四十七名、乙種二十五名に證書を附與したり。

◉北海道の女子教育　北海道尋常師範學校には從來女子部を置かず男子のみを養成し來れるが此後とても同校には女子部を設置せず之に換ふるに高等女學校を以てし該校内は女子部を置き本道女子教員の養成を爲す廳議にして既に高等女學校設置に就ては夫々計畫し三十三年度の教育費豫算中に高等女學校新設の經費を算入しあり校舍學級程度等も略他府縣の例に準し調査濟となり主務省にも交渉しある塲合なれは其設立の曉は同校にて女子師範生を養成し本道女子教育を擴張すべしと云ふ（函館毎日新聞、八月廿六日）

◉三重縣の女學校　三重縣には私立女學校はあれとも未た公立のものなく女子の教育他府縣に比して遜色あるより這般勅令の發布ありしを機とし師範學校内に女子教育の一部を設置せん計畫にて其豫算七千八百圓となし明年度の通常縣會に之が支出を要求することゝなれり尤も初年は一、二學級に止め漸次增設せん都合なり（大阪朝日新聞、八月廿一日）

◉安房の二孝女　安房國安房郡江見村亡永名卯兵衛の妻なほ女は貧家に生れしもよく孝貞の道を辨へ親夫に仕ふること世の模範とするに足れり夫卯兵衛は多病の身にて家計を治むること能はずしてなほ女が二十九歳のとき（明治元年四月）病死し次いで明治四年父仁兵衛も身まかりければ子ども二人を抱へて後に遺されたるなほ女が艱澁はいはん方なかりしも孝貞の志少しも衰へずよく家業を勉勵しければ善行やう〳〵人に知られ遂に舊長尾藩主本多氏より孝行の賞として金五圓、婦德を守りし賞として金二圓を贈られつ明治廿四年二月越前の永平寺の住職よりも亦孝貞、勤勉の賞とて白絹の袱紗と念珠とを贈られたり養子嘉七氏は明治六年この家を相續し當時既に負債は毫もなかりしが勤勉の結果今は富豪といふほどにはあられど財產漸く豐になれりとぞ（富士新聞、九月五日）

◉婦女の龜鑑　那珂郡額田村關榮の助妻某とて夫榮の助は五六年前より中風病に罹り居るに搗て加へて悴の某は海軍兵役中挫傷三年前歸省して以來病床に臥し居り一家兩名の病夫病子を抱えて之れが看護至らざるなく克く夫に貞に克く子に慈に數年一日の如くなるには近隣近村誰とて感歎せざるなしといふ（いばらき、八月十二日）

◉沖繩婦人の內地服裝　男子が古來の服裝變じたるは久しき以前なりしも婦人に至りては未だ服裝を變じたるものなし（例外はあれども）甚だしきは在東京の舊藩主尙泰侯妾腹の女にして東京より那覇に行までは內地裝を爲すも船中竊に衣を變へて沖繩裝となり上陸するが常例なる有樣なり從來日本服裝に對する沖繩婦人の感想を視るに大に之を慕ひ之に傚はんと欲するも世間の非難を恐れて敢てせざるものゝ如し然るに此頃首里小學校女子部教師久塲某女先づ其服裝を內地風に變たると同時に服裝に關し縣知事は師範校女子講習生に訓諭したるが爲め人心一變して今や漸く舊態を脫せんとするもの多からんとす然れども戰後沖繩男子が內地風に變裝せし當時の如く急調なる能はざる可し因みに記す例外の內地風服裝沖繩婦人とは前知事及び縣屬某の妾と今は鹿兒島に在りて耶蘇教の女傳道師となり居るもの及び出稼娼妓等なり又婦人の𩊱裝は久しく一般に行はれしが亦た漸く革まらんとす。

◉パリーの日本人嫌ひ　佛都パリー邊にては、日本婦人と結婚するものを甚しく嫌ふとか言へり。英國の詩人、エドウイン、アーノルドの妻は日本婦人にて、姿中々に氣高し。七月の「モンセー」に其寫眞あり、黒川たま女と云ふ。

◉露大學に於ける女生　近來露國にては女子にして大學の教育を受くるもの非常に增加し昨年冬期六ヶ月間の同國十大學に於ける女學生は四百十四人にして三年前迄は百人內外に過ぎざりしと云ふ（京華日報）

◉英國に於ける婦人撰擧權問題　英國上院は六十八人に對する百八十二人の大多數を以て同下院の可決したる女子に町村會正副議員の任命を許可すへしとの法案を否決したり內閣總理大臣ソールスベリーは獨り女子の撰擧を辯護し少數者の意見を贊成したるも其他各大臣は悉く多數者に贊成したりといふ。

◉產婆規則　いよ〳〵來月より施行せらるべき同規則は、七月十九日付發布にて、勅令第三百四十五號。左の如し、

第一條　產婆試驗に合格し年齡滿二十歳以上の女子にして產婆名簿に登錄を受けたる者に非ざれは產婆の業を營むことを得ず

第二條　產婆試驗は地方長官之を擧行す

第三條　一箇年以上產婆の學術を修業したる者に非ざれば產婆試驗を受くることを得す

第四條　產婆名簿は地方長官之を管理す

產婆名簿に登錄を受けんとする者は產婆試驗合格證書を添へ地方長官に願出づべし

產婆名簿の登錄事項に異動を生じたるときは二十日以內に產婆名簿の訂正を願出づべし

產婆名簿の登錄事項は內務大臣之を定む

第五條　產婆其の住所を移したる爲管轄地方廳を異にするときは直に前の管轄地方廳に產婆名簿の登錄を願出づべし產婆名簿取消の登錄を願出で後の管轄地方廳に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

し
前項の登錄換を爲さゞる者は産婆の業務を爲すことを得ず

第六條　産婆廢業したるときは二十日以内に地方長官に産婆名簿取消の登錄を願出づべし
産婆失踪又は死亡したるときは戸籍法に依り屆出義務者より二十日以内に地方長官に産婆名簿取消の登錄を願出づべし

第七條　産婆は妊婦産婦褥婦又は胎兒生兒に異常ありと認むるときは醫師の診療を請はしむべし自ら其の處置を爲すことを得ず但し臨時救急の手當は此の限に在らず

第八條　産婆は妊婦産婦褥婦又は胎兒生兒に對し外科手術を行ひ産科器械を用ひ藥品を投與し又は之が指示を爲すことを得ず但し消毒を行ひ臍帶を切り灌腸を施すの類は此の限に在らず

第九條　産婆は産婆名簿に登錄を受けざる者に妊婦産婦褥婦又は胎兒生兒の取扱を專任することを得ず

第十條　産婆にして墮胎の罪其の他業務に關する罪又は禁錮以上の刑に處せらるべき罪を犯したるときは地方長官は産婆の業を禁止し又は一年以内之を停止することを得

第十一條　試驗に關する規程に違背したる者あるときは其の試驗を無効とすることを得

第十二條　地方長官は産婆の業を禁止し又は停止したる後本人の行狀に依り其の禁止又は停止を解除することを得

第十三條　産婆試驗を受けんとする者又は産婆名簿に登錄を願出づる者にして試驗又は登錄の以前墮胎の罪其の他業務に關する罪禁錮以上の刑に處せらるべき罪を犯したる者又は試驗に關する規程に違背したる者なるときは試驗又は登錄を許可せざることを得

第十四條　産婆にして三箇年間其の業を營まざるとき又は瘋癲白痴不具癈疾と爲り其の業を營むに堪へずと認むるときは地方長官は産婆名簿の登錄を取消すことを得

第十五條　産婆名簿の登錄、登錄の取消、主要なる登錄事項の訂正竝産婆業の禁止又は停止及び其の解除は地方長官之を告示すべし

第十六條　左に掲ぐる者は五十圓以下の罰金に處す
一　産婆名簿に登錄を受けずして産婆の業務を爲したる者
二　産婆名簿の登錄を取消されたる後産婆の業務を爲したる者
三　産婆の業を禁止又は停止せられたる後産婆の業務を爲したる者
四　第三條に關し虛僞の證明又は陳述を爲したる者
五　第七條乃至第九條に違背したる者

第十七條　第四條第三項第五條第二項及第六條に違背したる者は科料に處す

附　則

第十八條　本令施行以前内務省又は地方廳より産婆の免狀鑑札を受け現に其の業を營む者は本令施行後六箇月以内に地方長官に願出で産婆名簿に登錄を受くることを得

第十九條　地方長官は産婆に乏しき地に限り當分の内出願者の履歴に依り業務の地域及五箇年以内の期限を定め産婆の業を免許することを得
前項の免許を受けたる者は産婆に準じ本令を適用す但し産婆名簿に登錄する限に在らず

第二十條　本令は明治三十二年十月一日より之を施行す

要目一覽

令孃鑑	千代田日報連載
須藤愛子八月五日。佐竹季子八月十三日。京極寅子九月一日。	
高橋みつ子（洋行奇談第二十七）	千代田日報（九月六日）
佛國の國風（幼兒命名の法、婚姻）	日本（八月廿六、七日）
强意思の民（女子强意思なし）	報知新聞（八月十三日）
婦人問題（山脇玄氏述）	時事新報（八月廿一日）
白拍子男舞（天倪子述）	東京朝日新聞（八月五日）
時世粧の變遷（女風の裝）	東京朝日新聞（八月八日）
人の妾たる者も大に考へざる可らず（社說）	時事新報（八月九日）
婦人界小言（大望ある婦人に付ての評、永井久錄）	下野新聞（八月廿二日）
家庭教育の不整理	憲政新聞（八月十二日）
貴族の家庭（三宅雪嶺）	日本（八月七日、八日）
氣焔錄（日本女子に就て）	大和新聞（八月廿五日）
女子の體育（青木義正氏述）	土陽新聞（八月十九、廿、廿二日）
庶出の子女	報知新聞（八月廿七日）
徳川家康の兒孫　方（秀忠夫人への文）	國民新聞（八月廿九日）
大谷派の跛教育（女子教育を欠く）	讀賣新聞（八月十三日）
美人共進會（青柳有美）	秋田魁新報（九月三日）
新美人譜（石寄山、撰）	讀賣新聞（九月四日）
婦人の談話につきて	福岡日々新聞（八月卅日）
半廢の家（原因は婦女の無學）	報知新聞（九月三日）
妾宅の廣告	時事新報（九月六日）
高等女學の設立	時事新報（八月廿四日）
むらさき娘（淺草寺の茶屋の娘雪野）	讀賣新聞（八月廿九日）
華族の婚姻	報知新聞（八月三十日）
庶出女の嫁處	同（八月三十一日）
婦人體育論	千代田日報（九月一日—六日）
小學女生の服裝	關西日々新聞（八月廿九日）
女生服裝問答（渡邊嶽）	信濃毎日新聞（七月三十日以後）
新日本の女子（西武雄）	新世紀（第二卷、第十九號）
ラスキンの婦人論（櫻城生）	同　前
女子の體育（ベルツ）	體育第七十號（八月十五日）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

和歌募集及豫約出版廣告

明治秀才 **女子百人一首**

全一册和裝頗美本〇豫約郵税共金廿四錢〇正價郵税共金參拾五錢〇郵券代用五厘或ハ壹錢ニテ二割増〇爲替振込局豐後國竹田郵便電信局

出版の目的

女子百人一首昔より今に至る迄これなきを慨し玆に該書を出版し以て女學の隆盛を計る故に江湖の諸媛諸孃左の各項に依り何卒金玉の詠を吝ます奮て投稿あらんことを

投稿の注意

自作の和歌五首及自己の寫眞と履歴書に豫約一部代金郵税共金廿四錢を添へ投稿せらるべし用紙は罫紙總て字体は楷書にて明記を要す但代金添附なきは沒書とす

出版の方法

斯道諸大家に請ひ募集歌中より一人に付一首づゝ都合百首を撰拔し小倉百人一首の如く各人の肖像(御贈附、寫眞に似せ)を描き上に歌を書し上欄に履歴を掲ぐ選拔せられさる人の歌は一首づゝ附錄に載す〇書籍のみ購求者は〆切迄に金廿四錢を贈附あれ〇〆切十月廿日限〇十一月末日製本出來申込順序に依り贈本す

豐後國直入郡荻村百六拾一番地

玉詠屆所 雅風舍主 **三輪庫子**

《九月一日第貳集發行》《第一集賣切》

月刊雜誌 **無絃之響**

壹册定價前金三錢　半年分定價拾八錢　一ヶ年分三十五錢

内國無郵税毎月一回一日發行

大絃は嘈々急雨の如く小絃は切々私語の如し、無絃の響とは即ち志ある同人相集りて美學文學に關する私説を吐き、聊か世に傳へて同情者の愛讀を乞はんとするものなり、されば敢て鉛版を用ひず、又發行部數の多きを企てずと雖も、自ら雅氣熱情の籠るものありて讀者胸底の絃線に共鳴せんは素より斷じて疑はざる所なり、幸に購讀の榮を與へよ、今や發行せし第二集には欄を餘韻、思潮、時吟、夏聲の四線に別し内餘韻には濃かなる物語、音樂と宗教の關係等あり又思調には厭生、忍びの儘、夏の色、捨子、佛國文豪ガスタブフローベル氏の思想、呻吟餘何づれも熱情ある筆を以て記され次に時吟には晩翠の評判、最も氣骨ある文學士某氏、京都大學の文庫保管等時論有出論峰白山にして眞に萬朝報的の辭法を以てし又夏聲には數多の歌首編入せられ氏の暖かなる思想感情に依て讀まれし者、一讀無絃の内に轉た響音を讀者の心底に共鳴せんは素より疑はざる所、希ふ諸姉諸子の購讀を待たん。

《御注文の諸氏は郵券にても宜しく候》

發行所 巣鴨村庚申塚 **露草會**

女學雜誌社出版書目

嚴本善治著 再版 **海舟餘波** 正價金三十錢 郵税金四錢

嚴本善治著 **吾黨の女子教育** 正價金十錢 郵税金二錢

嚴本善治著 **公娼可滅** 正價金三錢 郵税金二錢

島田三郎、植木枝盛二君合著 **廢娼演說** 正價金三錢 郵税金二錢

櫻井成明君譯 **腓立比物語** 正價金二十八錢 郵税金六錢

横山雅男君著 **婚姻論** 正價金十二錢 郵税金四錢

●今や原書の和製成れり。相列べて讀れなば、
●亦た英文獨學の余師たらん

故若松賤子女史譯述

再版 **小公子**

全一册洋裝美本　紙數三百五十頁　正價金三十五錢　郵税八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝこと數十百回、一代の流行を左右して、一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化す、德に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作人を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し。讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を棄る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝこと切なり。即ち玆に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、郷友松井昇氏は密畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元 東京日本橋區本町三丁目 **博文館**

大賣捌 東京巣鴨村庚申塚 **女學雜誌社**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治二十五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治二十五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY